

烏帽子会会報

2019年秋号 Vol.67



学生時代



朔教授
—学長—



学生時代



小玉教授
—医学部長—



学生時代



和田教授
—大学協議員—



学生時代



松永教授
—大学院研究科長—



学生時代



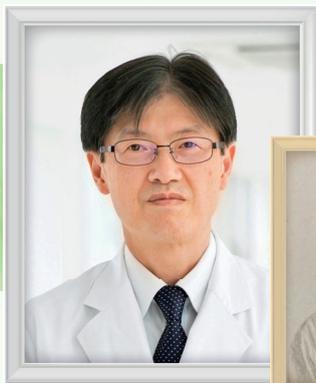
岩崎教授
—福岡大学病院長—



学生時代



柴田教授
—福岡大学筑紫病院長—



学生時代



三浦教授
—福岡大学西新病院長—



病院就職時



野田教授
—研究推進部長—

福岡大学医学部同窓会

目 次

・大学首脳人事	3
・会長挨拶	高木忠博 3
・在外研修援助金募集要項	4
・総会報告	
第38回烏帽子会総会報告	前川信一 5
・研究奨励賞	
2019年度研究奨励賞選考報告	岩崎昭憲 7
2019年度研究奨励賞受賞者名簿	8
・2019年度授賞論文抄録	
Motor-Evoked Potential Analysis of Femoral Nerve Status	
During the Direct Anterior Approach for Total Hip Arthroplasty (論文)	石松哲郎 8
Intraoperative evaluation of blood flow for soft tissues in orthopaedic surgery using indocyanine green fluorescence angiography : a pilot study (論文)	土井庸直 9
Impact of the triglyceride level on coronary plaque components in female patients with coronary artery disease treated with statins (論文)	山下素樹 9
GLP-1 Receptor Agonist Exendin-4 Attenuates NR4A Orphan Nuclear Receptor NOR1 Expression in Vascular Smooth Muscle Cells (論文)	高橋弘幸 10
・令和2年度研究奨励賞募集要項	10
・平成30年度評議員会報告	11
・学会開催報告	
第29回日本外来小児科学会を主催して	吉永陽一郎 15
日本泌尿器科学会福岡地方会304回例会開催のご報告	入江慎一郎 16
第114回日本血管外科学会九州地方会	和田秀一 17
第31回臨床神経生理研究会九州開催報告	安元佐和 18
・在外研修報告	
留学報告	石松哲郎 19
在外研修報告	宮原尚文 21
留学報告	大塚美玖 / 牛原夏海 22
海外留学報告	村上阿理紗 24
・支部便り	
令和元年度筑後支部総会開催報告	長井健佑 27
・学生対策報告	
令和元年度烏帽子会主催福岡大学医学部M4年生激励会を終えて	竹下盛重 28
M4激励会	境海斗 29
医学科1年生 ケーシー白衣授与式	安元佐和 29
M6激励会・新入生歓迎会	小玉正太 31
・キャンパスだより	
烏帽子会賞受賞者名簿	32
九州山口医師卓球大会 個人戦シングルス準優勝を通して	麻生大貴 33
九州山口医科学生卓球大会 男子個人ダブルス準優勝	大串秀仁 / 麻生大貴 33
烏帽子会賞を受賞して	伊藤友紀 34
第58回九州・山口大会の結果報告 ～個人準優勝～	緒方裕文 35
第58回九州・山口大会の結果報告 ～団体戦準優勝～	洪僚典 36
第58回九州・山口医科学生 体育大会個人戦準優勝のご報告	三森秀崇 37
九山活動報告 ～宮崎キコウ～	小池明生 38
西医体優勝のご報告	柳邊崇志 39
・医学部同窓会諸表 / 医局長・医長名簿	40～42
・教育職員人事	43
・訃報	43
・編集後記	43

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

大学首脳人事

大学首脳人事

(関係分抜粋・就任はいずれも12月1日)

学 長	朔 啓二郎 (医学部)
副学長	加留部 善 晴 (薬学部／教学担当)
	小野寺 一 浩 (法学部／財政担当)
	荒 牧 重 登 (工学部／研究・情報・地域連携・就職担当)
	田 中 守 (スポーツ科学部／医学・医療・スポーツ・健康・学生分野担当)
医学部長	小 玉 正 太 (13回生)
大学協議員	和 田 秀 一 (13回生)
大学院研究科長	松 永 彰 (3回生)
福岡大学病院長	岩 崎 昭 憲 (5回生)
福岡大学筑紫病院長	柴 田 陽 三 (4回生)
福岡大学西新病院長	三 浦 伸一郎 (11回生)
研究推進部長	野 田 慶 太 (6回生)

会長挨拶

朔学長誕生

そして、小玉医学部長、岩崎病院長誕生へ

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



遂に、85年の福大の創設期以来初めて、卒業生の学長が生まれました。27万人の友信会員の長年の夢でした。その学長が、最後に生まれた医学部から生まれた事は歴史上、何か意味が有るのかもしれませんが。医学部は、他学部と比較してある特長が有ると思います。それは、一般では、貸し借りや経済活動等色々な柵に縛られる事が多いのが普通ですが、それが少ない学部の様に思いますので、意外と年齢

を重ねても理想論などで話が盛り上がります。又職業柄、現実主義者でなければ仕事に為りませんので、細かい点まで正確に見極める習慣が身に付いている様に思います。この資質が、現在の福大に必要と考えられて学長に推挙されたのではないかと思います。

私は、烏帽子会会長ですので福岡大学全体同窓会である有信会の理事を務めさせていただいています。そして今回の学長選において大野有信会会長以下有信会の皆様には格別のご高配をいただいたことも報告いたします。その中で、真偽定かではない部分もありますが、以下のようなお話がございました。今迄福大は、大学運営ランキングでは、Aランク(AAa?)でしたが、今年初めてBランクに下がってしまいました。多分、会計上で十二分な程の保有資産が減少した為と思います。大変残念なのは、新病院建設計画を負債無しで建設可能だった状態が、210

億円もの負債を抱える事になってしまった事です。無負債で新病院建築完了されていれば開院直後から、大学運営では重要な部分を占める医療費収入が確実に保証される事が可能でした。手持ち資金の使用目的の順番に間違いがあった様に思います。資金の使い方に、「生き金」、「死に金」と云う言い方がありますが、これを分ける決め手は、その使い方の根底に「私欲」が、有るか、無いか、で結果が決まってくると思います。又、福岡市内の超一等地にある若葉高校の土地が、売却の危機から守られた事も良かったと思います。

天下の荒川内科を一層発展させた朔学長の発想で9学部が発展し activity が上がって行けばと思います。新しい風が福大に吹く事を期待しましょう!

さらに、3期6年間医学部長を努めた朔心臓・血管内科学教授の後任として小玉正太先生(13回生)再生・移植医学教授が12月1日より医学部長として就任されます。小玉教授にはお願いしたいと思います。世代は交代しました。その若さを生かして各科のセクショナルリズムを超えた新しい学部運営を期待します。入試のこと、学生教育、特に国家試験の成績に関しては同窓生も注目しています。頑張ってもらい

たいと思います。

もう1つ大変喜ばしいことに卒業生初の福岡大学病院長として岩崎昭憲先生(5回生)呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学教授が12月1日より就任されます。新病院の建築は急務かと思えます。大学内の不祥事で遅れていますが、朔学長としっかり協力していただき今後の大学運営を見据えて素晴らしい病院建築をお願いしたいと思います。昨今の病院経営は大学病院といえども大変なものであります。大学周辺の卒業生との協力は特に病診連携を含め重要なものであると考えます。同窓会としてもしっかり協力していく体制を作っていきたいと思えますので頑張ってくださいと思います。

以上のように、同窓会的には自分達の大学を自分達で運営していくという、盆と正月が一緒に来たような理想が一挙に実現しました。大変名誉で喜ばしい状況ではありますが、当然浮かれているわけにはいきません。我々には大変な責任責務が生まれております。卒業生の皆様には彼らを温かく厳しく見守っていただき、しっかり協力して福岡大学の歴史と伝統を作っていくことではありませんか。

福岡大学医学部同窓会

在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象 : 正会員、準会員 (本会会費完納を条件とする) で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法 : 所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出のこと

提 出 先 : 〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 内線 3032

F A X 092-865-9484

援 助 金 : 1件 20万円を限度とし、年間5件以内

発 表 : 本人に文書にて連絡

そ の 他 : ①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

総会報告

第38回烏帽子会総会報告

第38回烏帽子会総会 理事 前川 信一 (22回生)

令和元年7月6日に第38回烏帽子会総会を開催いたしました。元号が令和となって最初の同窓会総会でした。幸い天候に恵まれ、令和初の総会として上々の滑り出しだったと感じております。

今年のテーマは「絆」と銘打ち、今まで諸先輩方に培われてきた同窓会の伝統を引き継いでいくと共に、最先端の科学も学ぼうと、講演会では日本での人工知能の先駆者、山田誠二先生をお招きし、医療分野における人工知能の役割などについて非常に興味深い話をさせていただき大変好評でした。

懇親会は、例年と比べ謙遜なく約150名の方に参加頂きました。主幹事である22回生は50名ほど集まり、副幹事の32回生からは10年後は今年以上に盛り上がる会にしたいと決意の声も聞こえました。また女性の先生方により多く参加して頂こうと、昨年か

ら始めた託児所も充実させました。懇親会には山田先生にも参加して頂き、引き続き話が大変盛り上がっておりました。

皆様に喜んでいただけた総会になったと、我々実行委員一同大変嬉しく思っております。

今回、12回生の先輩方からの寄付やご支援、また22回生からも非常にたくさんの寄付を頂きました。更には事務局からも援助を頂きました。そして当日は、医学部看護科のボランティアサークルの学生の方々に協力いただき託児所を運営することが出来ました。また、それ以外の沢山の方々に支えられ今回の総会が成功しました。

今回の総会の成功を喜ぶと共に、この場をお借りして皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



講演会座長



懇親会司会



総会司会



22回生の先生方 / 令和元年7月6日 於ソラリア西鉄ホテル



総会風景



講演会風景



講演会風景



講演会風景



乾杯 朔 医学部長



新筑紫病院院長教授紹介



懇親会風景



恒例の輪になって校歌斉唱



23 回生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 12 回生

研究奨励賞

2019年度 研究奨励賞選考報告

選考委員長 岩崎 昭憲 (5回生)

本年度の研究奨励賞選考では、4名より5件の応募があり最優秀賞が1名、優秀賞3名の受賞になりました。昨年は10件であったことを考えると少しさびしい感はありますが、いずれもインパクトファクター(IF)が2を超える質の高い論文でした。一人で2件の複数応募も今回の特徴ではないかと思えます。また例年は循環器関連の研究論文が多い傾向にありますが、整形関連のものが目立ちました。これは、全領域で評価できる対象論文の裾野が広がってきたことを物語っています。福岡大学同窓生の層の厚さを示唆するもので、卒業生の一人として嬉しい限りです。ご存知のように研究論文作成や学位取得を最優先としてきた風潮も、最近は専門医を第一に優先することより基礎的研究に費やす時間も少なくなる傾向があります。このような時代背景になりつつありますが、是非今後も質の高い研究成果が卒業生から生まれることを期待しています。

さて、本年の内訳を少し御紹介しますと、32回生の石松哲郎先生が論文名「Motor-Evoked Potential Analysis of Femoral Nerve Status During the Direct Anterior Approach for Total Hip Arthroplasty」で最優秀賞を受賞しています。この掲載 Journal of Bone and Joint Surgery, American のIFは4.583でした。臨床的に価値ある研究として選考委員の中でも多くの支持を得た結果でした。優秀賞3名の中には、同じ整形外科より35回生の土井庸直先生や37回生である循環器内科の山下素樹先生、内分泌・糖尿病内科の高橋弘幸先生も同様な受賞をされました。表彰は7月6日の同窓会総会で紹介し表彰状と副賞が手渡されたのはご存知のとおりです。来年も選考委員会が白熱するほどの質・数とともに多くの応募をお待ちします。どんな論文を審査できるか皆で楽しみにしています。



左から石松先生、土井先生、山下先生、高橋先生

● 2019 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 整形外科 福大助手 石松哲郎 (正会員 / 32 回生)	Motor-Evoked Potential Analysis of Femoral Nerve Status During the Direct Anterior Approach for Total Hip Arthroplasty
福岡大学医学部 整形外科 福大助手 土井庸直 (正会員 / 35 回生)	Intraoperative evaluation of blood flow for soft tissues in orthopaedic surgery using indocyanine green fluorescence angiography:a pilot study
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 山下素樹 (正会員 / 37 回生)	Impact of the triglyceride level on coronary plaque components in female patients with coronary artery disease treated with statins
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 福大助手 高橋弘幸 (準会員)	GLP-1 Receptor Agonist Exendin-4 Attenuates NR4A Orphan Nuclear Receptor NOR1 Expression in Vascular Smooth Muscle Cells

2019 年度授賞論文抄録

Motor-Evoked Potential Analysis of Femoral Nerve Status During the Direct Anterior Approach for Total Hip Arthroplasty (論文)

福岡リハビリテーション病院 石松哲郎 (32 回生)



変形性股関節症に対する前方アプローチを用いた人工股関節置換術は、術後の脱臼率を減少させるメリットと共に年々増加傾向にある。しかし合併症の一つとして、術中に大腿神経麻痺が約 0.1% 生じることが報告されている。大腿神経麻痺を起こした場合、術直後より膝伸展が不能となり大腿部に異常知覚を生じ、リハビリテーションに負の影響を与え患者満足度を低下させると報告されている。しかし、本術式における大腿神経麻痺の原因を検証した報告はない。そこで本研究では、大腿神経に負の影響を与える原因を、術中運動誘発電位 (Motor Evoked

Potential) に基づいて検証した。結果として、術中の視野確保のために使用する股関節前方レトラクターを設置直後において、77% の症例で大腿神経の電位は有意に低下した。このことから、大腿神経麻痺の原因は、レトラクターによる軟部組織を介した神経圧迫であると考察し得た。レトラクターを外し閉創後には、電位は有意な回復をみせたものの、本術式において大腿神経麻痺を起こさないためには、レトラクターの設置に十分注意すべきことを報告した。本研究は 2018 年 4 月に J Bone Joint Surg Am に掲載され、平成 30 年度 日本整形外科学会の奨励賞を受賞した。

Intraoperative evaluation of blood flow for soft tissues in orthopaedic surgery using indocyanine green fluorescence angiography:a pilot study(論文)

福岡大学病院 整形外科 土井 庸直 (35 回生)



肩関節は人体の関節の中で最も広い可動域を持つ関節である。しばしば、中高年に好発する肩関節疾患(腱板断裂・肩関節拘縮)では肩痛、夜間痛、可動域制限をきたし、QOLの低下を招く。これらの疾患の原因として、肩関節を栄養する血流との関連が報告され

ている。また、腱板・関節唇の癒合や肩関節拘縮の治療を行う上でも肩関節の血行動態を評価することは非常に重要である。しかしながら、手術時において腱板や関節唇の血行を広く簡便に評価できる方法はない。今回肩関節鏡視下にて Indocyanine green fluorescence (ICG) angiography を行い、肩関節疾患の血流の違いを評価を行った。肩関節拘縮群において造影不良領域の割合は優位に低く、また腱板断裂群、腱板正常群に比べて優位に造影時間が短かった。本研究では鏡視下で初めて ICG angiography を用いて、他の疾患と比較

して肩関節拘縮の血流異常を確認した。腱板断裂群と腱板正常群において、造影不良領域の割合と造影時間に有意な差は認めなかった。元々血流が比較的乏しい腱板・関節唇の癒合を促進するためには、手術の際に骨髄刺激等の処置が必要と思われた。本手法は比較的簡便に手術時に軟部組織の血流評価を行うことができ、肩関節以外の他の関節や骨軟部腫瘍の手術にも応用することが可能である。しかしながら、今回は腹腔鏡手術用のデバイスを使用しており、関節鏡としては不適合な部分もあり、今後のさらなるデバイスの開発・研究の発展が必要である。

謝辞：研究・論文を行うにあたり多大な御指導を頂いた山本主任教授、筑紫病院の柴田教授、伊崎准教授、また忙しい診療の最中研究日を設けてくださった徳洲会病院の尾上先生、中村先生、ご協力いただいた先生方、そして、家族にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

Impact of the triglyceride level on coronary plaque components in female patients with coronary artery disease treated with statins (論文)

福岡大学病院 循環器内科 山下 素樹 (32 回生)



スタチンは、心血管病抑制の確立された治療法であるが、残余リスクが課題となっている。中性脂肪の高値は、残余リスクの一つとして注目されており、さらに女性において、より影響が大きい可能性が報告されている。そこで我々は、すでにスタチンを投与されている

378 名冠動脈疾患患者(女性 105 名、男性 273 名)において、血管内超音波法を活用し、冠動脈プラーク組織性状と中性脂肪値との関連性を、男女別に検討した。単変量解析の結果、男女ともに中性脂肪値と総プラーク容積

の間に有意な関連性は認めなかった。しかし、女性の中性脂肪値と脂質プラーク容積との間に有意な正の相関($r=0.40$, $p<0.001$)を認め、男性ではこのような関連性はみられなかった。他の脂質プロファイルとプラークとの有意な関連性については、男女ともに認めなかった。多変量解析の結果、女性の中性脂肪値は、他の冠危険因子とは独立して脂質プラーク容積と関連していることが示された。スタチンが投与されている女性の冠動脈疾患患者において、中性脂肪の高値が冠動脈不安定プラーク形成に寄与している可能性が示唆された。男性と比較して、女性の中性脂肪値はスタチン投与後の残余リスクとしてより重要であると考えられた。

GLP-1 Receptor Agonist Exendin-4 Attenuates NR4A Orphan Nuclear Receptor NOR1 Expression in Vascular Smooth Muscle Cells (論文)

福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科 高橋 弘 幸 (準会員)



糖尿病患者は高い心血管疾患のリスクをもつことが知られており、血管保護作用をもつ抗糖尿病薬を見出すことは非常に重要である。我々はこれまで、Ex-4 の血糖非依存的な動脈硬化抑制作用を報告してきた。一方、NOR1 は NR4A サブファミリーに属する核内オーファン受容体であり、我々は NOR1 が血管平滑筋増殖、動脈硬化形成に重要な役割を担っていることを報告した。本研究は Ex-4 の抗動脈硬化作用と血管平滑筋細胞における NOR1 発現との関連について検討をおこなったものである。129X1/SvJ マウスに、PBS (Control 群)、Ex-4 300pmol/kg/day (Low dose 群)、Ex-4 24nmol/kg/day (High dose 群) の投与を行い、大腿動脈血管傷害術を施行し新生内膜を測定したとこ

ろ、Ex-4 用量依存的に新生内膜形成・血管平滑筋細胞増殖は抑制されることが示された。また蛍光免疫染色では、NOR1 陽性の血管平滑筋細胞は Ex-4 用量依存的に減少することが明らかとなった。In vitro では、VSMC における NOR1 の発現は Ex-4 用量依存的に抑制がみられ、その作用は Ex-9 (39)、PKI によりキャンセルされた。更に、Cell cycle distribution analysis では、Ex-4 投与によって G1-S phase entry が抑制された。本研究は、抗糖尿病薬である Ex-4 が、血糖降下作用とは独立して血管平滑筋細胞における NOR1 発現を抑制し、血管傷害術後の新生内膜形成を抑制することを見出した初の報告である。インクレチン関連薬による NOR1 発現抑制は、糖尿病患者における心血管イベント抑制や動脈硬化進展抑制のために重要な役割をもつ可能性が示唆された。

令和 2 年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究論文又は研究計画)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：令和 2 年 5 月 1 日 (金)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：令和 2 年 7 月 4 日 (土) 予定、第 39 回同窓会総会席上 必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募ください。

平成 30 年度評議員会報告

- ◆日時 平成 30 年 4 月 28 日 16 時
- ◆場所 天神スカイホール 16 階
- ◆出席 評議員：出席 49、委任出席 66、欠席 4
支部長（再掲）：出席 9、欠席 11

◇経過報告

- ◆黙祷 亡くなった先生方を悼み黙祷
- ◆会長挨拶 高木会長

本日は、大型連休の初日に多数の先生方にご参加いただきましてありがとうございました。昨年度の経過の中で同窓会にとって皆さんに報告すべき3つの大きな出来事がありました。

一つ目は良い話であります。大変喜ばしいことに、二人の若い内科の福大出身の教授が誕生しました。同窓会にとっても大変名誉なことでもありますし、心臓・血管内科学の三浦教授と合わせて主要三内科の教授を卒業生で占めることになりました。

この三人が将来の福岡大学医学部をリードしてくれるものと期待しています。

本日は出席されておりますのでご紹介させていただきます。まず一人目は消化器内科学主任教授 14 回生平井郁仁先生です。もう一人は内分泌・糖尿病内科学主任教授 21 回生川浪大治先生です。お二人より一言ご挨拶お願いいたします。

平井郁仁教授ご挨拶「平成 3 年卒業の 14 回生です。卒業後は福岡大学筑紫病院に長らく勤めておりましたので、4 月から研修医時代以来に福岡大学病院へ帰ってまいりました。気を引き締めるうえで緊張しながら仕事をしております。今後ご迷惑をおかけすることもありますし、ご協力をお願いすることもございます。どうぞよろしくお願いいたします。」

川浪大治教授ご挨拶「平成 10 年卒業の 21 回生です。卒業後は東京の虎の門病院で研修をいたしまして、その後東京慈恵会医科大学の糖尿病代謝内分泌内科で 19 年勤務いたしました。21 年ぶりに戻って来ることが出来ました。福岡大学に戻って来る話しは 2 年程前から同窓会の先生方に目に見える形見えない形で多大なるご支援をいただきました。このような機会をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。当講座は開設からまだ 10 年という若く、これから様々な形で成長していかなければと思います。同窓会の先生方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い

いたします。」

もう一つ喜ばしいことがあり、今年の 4 月より 4 回生の柴田陽三先生が福岡大学筑紫病院長に就任されました。初めて病院長に卒業生が就任いたしました。彼の活躍を期待したいと思います。

二つ目は今年度医師国家試験の結果です。現役 75.2%と全国最下位の成績でありました。同窓会に対してもお叱りのメールや FAX が同窓生より送られております。私も大変残念な気持ちで皆さんも同様の気持ちであろうと思います。しかも、学部長は朔教授、医学教育推進講座教授は安元教授という卒業生がトップを務める中でこの結果は、同窓会にとっても衝撃的なものでありました。いつも申しておりますが、国家試験の成績を一番心配し、気に留めたり泣き笑いしてくれるのは、保護者と学生と同じ血が流れている我々同窓生だけあります。

この結果を真摯に受け止め学内の皆さんには奮起を促したいと思います。後ほど安元教授より今回の結果の分析と今後の対策について説明があると思いますのでよろしくお願いたします。

同窓会は今までも常に国家試験の成績向上を目指し学内の先生方を応援して参りました。今後も全力で国家試験 100% 合格を目指してバックアップしていきたいと思っております。

三つ目は東京医大の事件から始まった入試の不正問題のことで、これについては、この本質から目をそらして入試の不公平のみを流すマスコミの報道には殆どの方が違和感を持たれているのではないかと思います。この問題の本質は何か、現在の学内の見解はどうなっているのか、本日は医朔学部長は不在ですが、林教授、小玉教授より後ほど説明があると思います。皆さんより質問を受けられると思いますのでご討論の程よろしくお願いたします。

以上3点が、皆様にどうしてもご報告したいことでした。例年通り予算評議員会ですので、事業計画案等についてご説明いたしますので、活発なご討論の程お願いたします。

〈重田副会長〉

国家試験の問題につきましては事業計画の中で安元教授より説明があると思います。3 点目にありました入試問題、学内の問題につきましては全ての議題が終わりました後に林教授よりお話があると思います。

◇議題 1. 平成 30 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況

〈田中理事〉

28年度、29年度、30年度までの累積、30年度単独の資料を示しております。支部徴収30年度単独では83.9%という高い納入率をいただいております、30年度までの累積も79.8%と高い納入率となっております。100%の徴収率となっている支部もございます。ありがとうございます。田川支部、直方鞍手支部につきましては、筑豊支部より2つに分かれており会計上の整理が整っていないということで0%の報告となっておりますが、事務整理がつき次第この納入率も上がってくるものと推測しております。本部徴収に関しましては現在のところ40.9%です。本部徴収の締めが5月末ですので例年の数字にいくのではないかと考えております。

支部徴収に関しましては多大なるご苦勞をおかけしていると思います。日頃よりお忙しい中、支部徴収にご苦勞をおかけしております役員の方には、改めて御礼申し上げます。引き続きご援助いただきますようお願いいたします。

〈重田副会長〉

以上平成30年度収入支出決算見込について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

ないようでしたらご承認をお願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題 2. 平成 30 年度事業報告及び

2019 年度事業計画 (案) について

①会報の発行 〈田野理事説明〉

例年2回春と秋に発行しています。送付先は特別会員、正会員、準会員、学生会員と保護者、各医局、他学同窓会、本学です。入学する学生数が増数増額となります。

②総会の開催 〈田野理事説明〉

総会担当学年に準備金として20万円渡しており、総会に招待する学生会員の会費の負担をしています。

③支部活動援助 〈田野理事説明〉

講師招聘援助金は、今年は6支部より申請があり援助しております。支部活動費は、支部徴収をいただいている支部に対して援助をしています。各支部活動費は、主に七隈支部福岡大学の地元でいろいろ活動するにあたり使っている費用です。

〈林副会長〉

教授2名病院長も誕生いたしました。その他も含めて活

動費を使わせていただいております。どうかご容赦の程お願いいたします。

④研究奨励賞 〈林副会長説明〉

年々応募数も増え質も上がっております。30年度は10件の応募があり、20名の現役教授で選考しました。それぞれ点数付けをし公平に評価を行い、話し合いの結果6名の方に授与することになりました。

⑤在外研修援助金 〈小玉理事〉

平成30年度は準会員1名、学生グループ2チームに援助しております。資料に金額が計上されていないのは助成した時期が3月だったからです。準会員の方は私の研究室出身で消化器外科へ入局しお預かりしていた人です。ハーバード大学へ留学しておりますが、学生の留学の受入も快諾してくれております。学生2グループはコンケン大学へICEM (International Challenge on Emergency Medicine)へ福岡大学代表として2チーム8名参加した際に援助しております。

⑥学生会員支援 〈安元理事説明〉

日頃から同窓会の先生方には学生への支援にご協力いただきまして誠にありがとうございます。予算に500万円つけていただいております。事業内容としましては、新入生歓迎会。4年生の教養試験前の激励会。6年生には国試激励会などを行っております。文化系愛好会の活動費へも援助いただいております。2019年度の事業内容に関しまして大きな変更はありませんが、予算が40万円の減額となっております。その理由は新入生歓迎会が同窓会と学生会が一緒に開催しておりましたが、同窓会単独での開催となりますので50万円減額となっております。学生会への活動費10万円の援助をしていただくことで40万円の減額となっております。

⑦白衣贈与 〈安元理事説明〉

4年生に Student Doctor 認定式で授与する白衣以外に、1年生に1年次の病棟実習、3年次の地域医療実習で着用するための KC 型白衣を作っていただいております。

⑧国試対策費 〈安元理事説明〉

国試対策につきましては、国試対策に100万円、成績強化補習に100万円、200万円の予算をたていただきました。6年生に対し、国試直前セミナーへの補助、直前の激励会、国試当日のお弁当に予算を使わせていただきました。昨年は合宿を行いました。今年春は春に学内で強化補習を46名を対象に行いました。※今年の国試の結果と今後の対応をスライドを使い説明あり。

〈穴井評議員〉

学内の分析はよく解りました。良く比べられるのが久留米

大学です。久留米大学が今年上についています。久留米大学はどうして上がったのかそういう分析はどうでしょうか？

〈安元理事〉

CBTの判定基準が福大より5点程高くなっています。成績が悪い学生は実習をさせないで予備校に大学のお金で通わせるとのことです。それが単科大学だから出来ることで、福岡大学医学部単独で出来るものではありません。それを保護者へ負担を求めることも厳しい現状があります。自分の立ち位置を甘く考えている学生もあり、厳しく注意をするとパワハラ委員会へ訴えを起こします。

〈林副会長〉

教育の改革などの責任を負わされていますが、各科の判断に異議を唱える権限を与えられておりません。進級に値しない学生を上げる科があるということです。国試の結果を上げるためには厳しくしないとダメです。いくらお金を使って勉強させようとしてもやらない学生はやらない。

〈星子評議員〉

学生に対し大人としての責任を求めて良いのではないのでしょうか？予備校が必要ならば激励会等に使う予算を充て予備校で勉強させた方がよっぽど役に立つのではないかと思いますがいかがでしょうか？

〈安元理事〉

先生の仰るとおりです。入学してすぐに「大学は成人学習をするところである」と1年生へ講義をします。ただし現実の大学生は非常に未熟です。大人として認めて、あなたが自ら選択して決めて行くんだよという話しは再三しますが、現実は大大人になりきれません。予備校を入れるのは国試のためには正しいのかもしれませんが、大学は学問をする場であり、予備校を入れるのは間違っているだろうという意見も大きくあります。それが実は学生に任せてきた結果なんです。学生たちの気持ちを優先して学生が自ら学ようになってほしいという方向に進めてますが、学生の多くは非常に受け身です。徹底して予備校に任せるとなると激励会の予算では全く足りません。今でも援助をさせていただいているのにそれを全部同窓会にお願いすることも難しいと思っています。学費を下げた大学には優秀な学生が集まるという現状があります。今後大学に考えていただきたいことでもあります。私の基本的方針として、先生が仰るように成人として学生が成長し、自分から学ぶんだというようになるように、今の5年生が1年生の時から臨床医に関わってきました。国試の成果は見てませんが、CBT、オスキーの成績が上がっているはその成果はあるのではないかと思います。

〈林副会長〉

予備校は、合格するかもしれないという期待を持たせるだけで、実際には自分で勉強する子たちの成績を上げる

ことには役に立ちますが、落ちる子、しかも福大の講義はいかん、予備校の授業を受けさせてくれれば自分たちは上がるという学生は、行かせても続きません。やっぱり自学自習です。きちんとこのレベルまで来ない子はだめだよとはっきり示してやるしかない。そこまで昇ってくるのを待つしかないというのが本論だと思います。

〈馬渡評議員〉

国試の成績は当大学の価値を毀損するものであると思います。皆さんもすぐ頭にきてると思います。福大出身だから診療が下手だと患者さんも思わないでしょうし、皆さんも確固たる診療実績をあげてありますのでそれは関係ないと言われる方もおられるかもしれませんが、間違いなく価値を毀損しています。星子先生が仰ったこともよく解ります。この結果を受けて医学教育推進講座のホームページを見ました。是非皆さんにも見ていただきたいと思います。素晴らしです。こんなことまでやられてるんだとびっくりしました。医学教育要項もA4サイズ400ページ位ありました。大変苦勞なことである、学生に寄り添ってやってあることがこの内容を見たらよく解ります。

国試対策の実務をされている先生方はお辛いだろうなと思います。未だに協力してくれない方がおられるのではないかと思います。その中先生方が頑張っておりますし、少し明るい兆しも見え始めたようですので見守っていくことかなと思っています。毎年特別講義をしております牧野先生も何とか役に立ちたいと言われておりました。

〈重田副会長〉

同窓生しか言えない言葉だろうと思います。現在最終的な権限が安元教授にありません。今後権限と責任が集まるように持って行ければ変わってくるのではないかと思います。苦しい中必死に頑張っておりますので皆でバックアップしていこうと思っています。

⑨支部祝儀贈与 〈田野理事説明〉

新しく支部が発足した時にお祝い金として5万円差し上げています。各支部会に理事が参加させていただく時に祝儀を本部よりお渡ししています。

⑩学生行事援助 〈小玉理事説明〉

例年とおおり烏帽子会賞は西医体、丸山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しています。今まで文化系への援助はありませんでしたが、活発に活動し大会への参加もしておりますので援助することにしております。

⑪学会寄付 〈林副会長説明〉

本学の出身教が学会を開催される時に、小さな学会は少額、大きな学会にはかなりの額と分けておりますが、今後も同様な学会を主催する同窓生が出てくることは十分考えられます。

⑫慶弔贈与〈田野理事説明〉

お慶び事としましては二人の教授が誕生いたしました。正会員2名の先生方へ、仏生花または弔慰金を出しております。

⑬グッズ作製〈事務局説明〉

今年はネクタイ作成を予定しております。

⑭会員名簿 ⑯奨学金緊急貸与 実施せず

⑰パニックマニュアルの発行〈安野理事説明〉

多くの卒業生に配布して活用されているパニックマニュアルですが、改訂に向けて大学病院の先生を中心に原稿の修正を行っています。現在校正に向けて作業を進めていまして11月に出版予定です。300万円の予算として計上させていただきました。

⑭会員名簿 ⑯奨学金緊急貸与 実施せず

⑰縁結び〈田野理事説明〉

縁結びに関わる案内、申込書の諸経費、ホームページドメイン料に使わせていただいています。事業として7年余り経っていますが、残念ながら1組も成立しておりません。

⑱保険コンサルティング紹介〈武末理事説明〉

生命保険その他いろいろな保険を、会員の皆様に情報提供する業務を開始して7年になります。それに付帯して弁護士相談、労務相談を始めて2年目になります。昨年は保険契約が学生会員4件でした。労務相談件数が70件程で就業規則など見直しをされたケースが30件程あります。同窓生へのサービスとして弁護士、労務相談がお役にたっていると思います。保険コンサルティングも活性化し件数を上げるよう動いているところです。同窓会からのご案内と解るように封筒代として予算を計上しております。

⑲ホームページ〈北島理事説明〉

現在のホームページは2016年にリニューアルさせていただきました。2017年度のアクセス数が3,046件、2018年度が3,760件と増加しておりました。最も閲覧数が多いのは総会関連で1,600件、閲覧数全体のおおよそ40%を占めていました。続いて会報が525件、14%。縁結びは360件で10%程度でした。アクセス方法ではパソコンが60%で、タブレットを含む携帯端末が40%でした。ユーザー層としては25歳から34歳が30%位で最も多くを占めています。ホームページ閲覧においてIDとパスワードが必要なページがありますが、会報目次ページの一番下に記載しておりますのでご参照いただければと思います。

また以前使用していた烏帽子会のアドレス(@minf.med.fukuoka-u.ac.jp)がサーバーシステム終了により変更することになりました。烏帽子会ホームページサーバーを利用して新しいアドレスを作りましたが不安定の様です。Gmailを併用しています。会報・ホームページに掲

載してありますのでご参照下さい。サーバーは縁結びと一緒にため半々で負担しています。更新は月に1~2回、主に理事会、激励会等の事業がありましたらその都度報告文や写真を載せております。

〈重田副会長〉

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか?

ないようでしたらご承認お願いいたします

拍手をもって承認

◇議題3. 2019年度収入支出予算(案)

事務局説明

〈重田副会長〉

以上2019年度収入支出決算見込について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか?

ないようでしたらご承認お願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題4. 決算評議員会省略の件

拍手をもって承認

◇議題5. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第38回総会案内

前川信一先生より説明あり

日時 令和元年7月6日土曜日

場所 ソラリア西鉄ホテル

17時より総会、17時40分より講演会を予定しております。今年の講演会は外部より講師をお招きします。山田誠二先生で人工知能学会の会長を務められた方です。「人工知能AIと現在とAI社会」というタイトルで医療と絡めて講演をお願いしております。懇親会は19時からです。

多くの先生方のご出席をよろしくお願いいたします。

〈重田副会長〉

最先端のなかなか聞けない内容のようです。しっかり宣伝をしていただけたらと思います。担当の先生方よろしくお願ひいたします。

平成30年度評議員会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

学会開催報告

第29回日本外来小児科学会を主催して

吉永小児科医院 院長 吉 永 陽一郎 (9 回生)

2019年8月31日と9月1日の2日間、福岡国際会議場とサンパレスホテルにて、第29回日本外来小児科学会を開催いたしました。会頭 吉永陽一郎、事務局長 長井健祐の、福大医学部出身者コンビで望みました。通常は大学教授や大病院の院長が、医局員などの協力を得て開催するのだろうと思いますが、小児科開業医としては、自分と同じような立場の先生方をお願いするしかありません。その結果、山口、沖縄を含め、九州全県から実行委員をお願いすることが出来ました。30人ほどの実行委員が、学会前には毎月のような準備委員会に足を運んでくれました。その実行委員の協力無しには、この不慣れた会頭の身にあまる大イベントは成立しませんでした。中でも、長井健祐事務局長は大活躍でした。

1週間違いで記録的な大雨と、台風に挟まれたものの、学会当日は天気も荒れることなく、また暑さも例年ほど厳しくなく、そういう運も味方につけて、無事に開催することができました。約3千名の小児医療関係者で溢れた会場では、盛会だったと、多くの方

からご挨拶いただきました。

前日の学会参加者対象のアンサラーライブ、会頭講演、十四代今泉今右衛門氏による会頭招聘講演、自見はなこ先生、横倉義武先生による2つの会頭指定講演、一般演題72、その他、特別講演2題、教育講演18、招待講演4、シンポジウム10、様々な形態のセミナー13、会員相互の企画によるワークショップ24、ランチョンセミナー16、企業展示60、患者家族の会・支援者の会テーブル19、その他、様々なネットワークやクリニックの工夫に関するパネル展示など、多様な内容の学会になりました。

最後になりましたが、懇親会には烏帽子会の高木忠博会長、重田正義副会長にご臨席いただきました。誠にありがとうございました。また、烏帽子会本会、福大医学部同窓会筑後支部(浅倉敏明支部長)には物心両面からのご支援をいただきました。想像を越えるご支援と、沢山のお声かけをいただき、同窓会のありがたさを痛感いたしました。本当にありがとうございました。





日本泌尿器科学会福岡地方会 304 回例会開催のご報告

福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座 医局長 入江 慎一郎 (17 回生)

令和元年 7 月 27 日に福岡市の電気ビル共創館「みらいホール」にて、日本泌尿器科学会福岡地方会 304 回例会(会長：田中正利教授)を開催いたしました。

当日はやや曇天とはいえ 30℃を超える天候でしたが、参加者は 181 名とほぼ例年通りの数となりました。発表演題は 30 題で、多くは福岡県内の施設からの発表ですが、熊本や大分の施設からも演題をいただきました。前半は当科准教授の松岡弘文先生、後半は福岡大学筑紫病院准教授の石井 龍 先生の座長により会が進行しました。福岡大学と九州大学、飯塚病院の臨床統計に始まり、稀な組織型の尿路腫瘍に関する報告や腎外傷・腎出血に関する報告、そして免疫チェックポイント阻害薬の副作用や治療効果に関する報告も見受けられました。また会の後半には当科名誉教授である有吉朝美先生より「成人の陰嚢水腫に対するフェノール硬化療法」との演題名でご発表いただきました。現役の医師としてのお仕

事だけでなく、飽くなき探究心と情報発信力に敬服の念を抱かずにはいられませんでした。

本会終了後にはヤンセンファーマ・日本新薬の共催による前立腺癌学術講演会が開催され、田中正利教授の座長のもと、香川大学医学部泌尿器科学教授の杉元幹史先生より「mCSPC, MOCRPC 新展開」との題でお話いただきました。現在、前立腺癌治療はホルモン療法に感受性のある患者に対する治療薬、無効となった患者に対する治療薬など様々な薬剤が選択可能となっており、実臨床ではその選択に迷う場面もあるのが実情です。杉元先生にはその迷いを少しでも減らせるような現場に即したお話をいただき、参加者には大変参考になる内容となりました。

昨今の企業からの協力状況では今回のような地方会の開催準備に毎回苦労させられます。この度の同窓会の皆様からのご後援は大きな助けとなりました。この場をかりて感謝申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



第114回日本血管外科学会九州地方会

福岡大学医学部 心臓血管外科 教授 和田 秀一 (13 回生)

2019年8月24日(土)、福岡大学メディカルホールにおきまして第114回日本血管外科学会九州地方会を開催し大過なく盛会のうちに終了できました。幸運にも発表演題数29演題と約100名の参加者が集まり、午後から行う血管外科の九州地方会としては例年以上の演題と参加者が集まりました。若手優秀セッションでは8演題の応募があり、最優秀演題、優秀演題の各受賞者には賞状と副賞として賞金の贈呈を行いました。また、地方会終了後は第24回九州血管制御シンポジウムを同時に開催致し、特別講演として福岡赤十字病院循環器内科の松川龍一先生に「循環器内科でなくても知っておかないといけない

心不全」という貴重なご講演を賜りました。例年以上に参加者が多く一会場で行う地方会としては時間調整も大変で終了時間も例年より遅くなりましたが、活発な意見交換が行われ、大変有意義な会であったと思われま

す。この度、地方会の準備、運営を順調に行えたことは、福岡大学同窓会からの支援の賜物と心から感謝を申し上げます。今後もさらに臨床・研究・教育に研鑽を重ねることで同窓会にお返しができると思っております。簡単ではございますが、会の報告とお礼の言葉とさせていただきます。

第114回
日本血管外科学会
九州地方会

2019年8月24日(土)

会場: 福岡大学 福大メディカルホール
福岡市城南区七隈7丁目45-1 福岡大学病院

会長: 和田 秀一
福岡大学医学部心臓血管外科学教室 教授

事務局: 福岡大学医学部心臓血管外科学教室
〒814-0180 福岡市城南区七隈7丁目45-1
TEL: 092-801-1011 ex.3455 FAX: 092-873-2411

第31回臨床神経生理研究会 九州 開催報告

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元 佐和 (7回生)

令和元年8月10-11日の2日間にわたって、福岡市中央区百道浜の国際医療福祉大学のももちホールにおいて、「第31回臨床神経生理研究会 九州」を開催いたしました。本学会開催にあたり、医学部同窓会から助成をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。

本学会は、日本臨床神経生理学会の実技講習会も兼ねており、教育講演、一般講演と同時に日本臨床神経生理学会のハンズオンセミナーを開催いたしました。九州地区の神経内科、精神科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、検査医学、基礎医学など多分野から医師、臨床検査技師、学生などが参加し、地方会と同等の位置付けになっております。1日目のテーマには、子どもとおとなの睡眠を取り上げ、特別講演として、久留米大学医学部精神医学講座の内村直尚教授に「睡眠とQOL～睡眠不足や過眠が心身に及ぼす影響～」、太田睡眠科学センター(大阪大学大学院小児発達学研究科)加藤久美先生に「小児の発達障害と睡眠」のタイトルでご講演をいただきました。現代社会における

睡眠の重要性を認識する有用なテーマであったと参加者からも多くの感想を頂戴しました。また、教育講演の3題は全て福岡大学の若手研究者に講師をお願いしました。福岡大学医学部脳神経外科 森下登史先生に「大脳基底核回論の機能的神経外科治療への応用」、福岡大学病院周産期母子センター 瀬戸上貴資先生(26回生)に「新生児の経頭蓋エコーでわかること」、福岡大学筑紫病院 脳卒中センター 津川潤先生に「神経筋エコーの基礎と臨床」をお願いしました。一般演題には、福岡大学病院小児科 山口拓洋先生(37回生)が「小児に対する筋エコーの有用性について Isaacs 症候群の一例」を発表しました。2日目の午後の技術講習会では、津川潤先生に神経筋エコー、福岡大学病院 臨床検査部の中川勝氏に脳波記録法の実技指導の講師をお願いしました。九州各地区の臨床検査技師の方を中心に、実際の神経生理学的検査の測定の実技指導と活発な質疑応答が交わされました。

同窓会からのご支援と福大小児神経グループの協力のもとに盛会裏に閉会しましたことをご報告申し上げます。誠に有り難うございました。



在外研修報告

留学報告

福岡大学医学部 整形外科 石松哲郎 (32 回生)

この度、福岡大学医学部同窓会から御助成を頂き、ドイツに留学が出来ましたこと、深く感謝しております。

私の留学経緯についてお伝えするにあたり、まず変形性膝関節症は本邦において 2500 万人以上の高い有病率とともに、ロコモティブシンドロームの一因となり得る重要な疾患です。本症に対する手術的治療法として、高位脛骨骨切り術を代表とする Knee Osteotomy は、元来の膝機能温存が可能な術式であることから国内外を問わず近年増加傾向にあります。この術式の確立、普及のため世界をリードしているのが、AO Foundation を母体とする Joint Preservation and Osteotomy Expert Group (JPEG) であり、このグループの一員である Prof. Steffen Schröter のおられるドイツの Tübingen 大学に 2018 年 10 月から半年間留学して参りました。この留学に先立ち、Prof. Steffen Schröter を御紹介下さり、また JPEG の一員として日本の Knee Osteotomy をリードしておられる竹内良平先生の下で、さらに半年間勉強させて頂くことができました。このような貴重な経験を得ることが出来ましたのも、福岡大学整形外科を主宰される山本卓明教授の御尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

Tübingen という地名を聞かれてピンとこられる方は、かなり少ないのではないかと思います。Tübingen は南ドイツの大都市ミュンヘンからさらに西へ電車で 4 時間程の場所に位置し、人口の約 3 割が大学関係者という、大学を中心として栄えている街です。この Tübingen 大学は 1477 年に創設された、ドイツでも優秀な大学のひとつであり、主な卒業生には天文学者のヨハネス ケプラーや哲学者のゲオルクヘーゲルらがおられます。また皆様よく御存知の書籍「車輪の下」の筆者であるヘルマン ヘッセもこの街で暮らしておられたようで、記念館なるものもありました。街中に大学の施設が点在し、学生が多いためかヨーロッパの中では非常に治安の良い街でした。私

はその Tübingen 大学の整形外科施設である BG Trauma Center に勤務させて頂きました。この Center では手術手技に特化した複数のチームがあり、その中で Prof. Steffen Schröter の Osteotomy チームと Prof. Atesch Ateschrang の Arthroscopy チームの手術に数多く助手として関わらせて頂き、御指導を受け勉強させて頂きました。外傷後の高度変形膝や複合的な膝靭帯損傷等を、新旧様々な器械や技術を駆使し治療していく様には大変感銘を受けました。中でも Osteotomy の技術を用いて全身のあらゆる関節変形を正常アライメントに整えていく様には、今後の更なる Osteotomy の発展を期待せずにはいられませんでした。

また、AO Foundation の留学支援制度を利用し、スペイン、イタリア、スイス、エジプト、中国、インド、タイなど様々な国からみえられた留学生とともに勉強や食事をし、語らうことができましたのも私にとって良い財産となりました。少しばかり私の研究の話をする、O 脚膝を正常アライメントの下肢へ矯正するためには、大きく分けて 2 種類の高位脛骨骨切り術があります。一つは脛骨を内側から切って楔形に広げる方法、もう一つは外側から楔形の骨を切り取って狭める方法です。この手術手技の違いにより生じる膝蓋大腿関節にかかる影響を研究して参りました。この研究結果を 2018 年 12 月にスイスのダボスにあります AO Foundation 本部において招待口演として発表の機会を得ることができ、また 2019 年 1 月には Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy という Journal に Accept して頂くことが出来ました。

ドイツの冬は、福岡育ちの私にとって非常に寒く感じましたが、12 月にはクリスマスマーケットがドイツ各地で街をあげて開催されており、その美しさは厳しい寒さを吹き飛ばす程でありました。また飛行機に 1 ~ 2 時間も座れば、ヨーロッパ各地に行くことが可能であり、この機会にと妻と一緒にヨーロッパを周遊でき、素晴らしい思い出となりました。今後もし留学先

● 在外研修報告 ●

を検討されておられる同窓の先生がおられましたら、是非ドイツも候補の一つとして挙げてみられては如何でしょうか。留学にはもちろんストレスを感じる場面もありましたが、それも含めてたくさんの有意義な経験

をさせて頂くことができました。このような機会をお与え下さり、ご支援頂きました、福岡大学医学部同窓会の皆様、山本卓明教授、整形外科同門及び医局員の皆様に重ねまして厚く御礼申し上げます。



JPEG メンバーとスイスの AO Foundation 本部前にて (右から 3 人目が筆者)



Prof. Steffen Schröter と



留学生と参加した病院のディナーパーティ



クリスマスマーケット (@ Tübingen)

在外研修報告

佐賀大学医学部 胸部・心臓血管外科 宮原尚文 (32 回生)

今回岩崎教授からのご高配を賜りウィーン大学の胸部外科に research fellow という立場で留学する機会を頂きました。留学期間は 2017 年 10 月から 2019 年 1 月までの 1 年 4 ヶ月です。

ウィーンはオーストリアの首都で面積は北海道と同程度で人口は 160 万人の都市です。緯度は北海道より高いですが、メキシコ湾暖流の影響で北海道より暖かいと言われています。ただ、私がいた頃は-13 度程度まで下がる事もありました。物価は少し高いように感じる事はありますが、チーズ、バター、生クリームなどの乳製品やパンなどは日本よりも安く美味しく食べることができます。

今ではいい思い出ですが海外での生活では日本であまり経験できない予期せぬトラブルも経験しました。大雨の時に大量の水が風呂場とトイレから逆流した事が 2 回ほどあったり、自転車が使用開始 2 ヶ月でチェーンが切れてしまったりなどもありましたが、治安は良く危険な事に遭遇する事は運よくありませんでした。また、ウィーンはヨーロッパの他の国々へのアクセスもよく、イタリア、スペイン、クロアチア、ズロバキアなどに旅行に行くことができ家族との良い思い出を作る事ができました。

本題の研究ですが、同じような内容でテーマを 2 つ与えて頂きました。一つは肺移植後の慢性拒絶反応もう一つは良性気管狭窄に関して、上皮間葉転換との関連を調べる研究です。両者とも実際の患者検体を使用するのですが、日本では同検体を十分量得る事は困難です。今回慢性拒絶反応の検体を 30 例、良性気管狭窄が 60 例を研究に用いています。ありがたい事に研究計画は大まかに決まっていて、それに基づき倫理委員会の書類を作成しました。次に実際の手術現場で気管検体や肺検体が出た時にオペ室に出向いて検体を頂きそれをパラフィンブロックに処理し、免疫染色などに使用するためのスライド作りも全て自分でできるように指導されました。免疫染色と同時に関連する micro RNA の発現と分布を見るために in situ hybridization (ISH) を教わりましたが、ISH に関しては研究室の実験の設備が十分でな

く、自分で物品や RNase free water をその他研究所から直接交渉して調達したりしなければならず苦労しました。加えて実験自体の手技が難しいこともあり、なかなか陽性コントロールが染まらず、何度も失敗を経験しています。それでも留学が終える時には次の実験である RT-PCR も完了し、現在は論文を完成させ投稿をするところまで来ています。

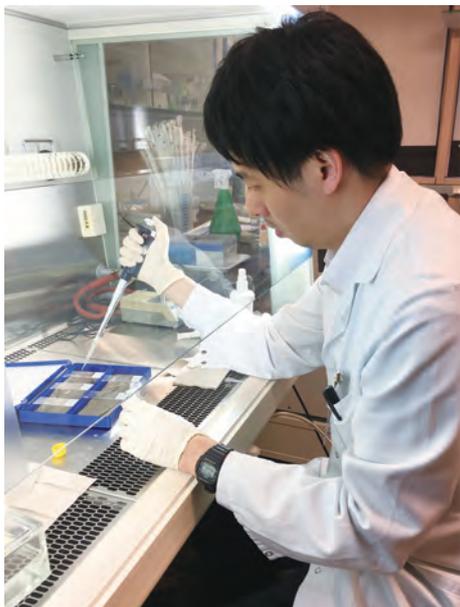
研究以外では呼吸器外科に所属していたため、肺移植や呼吸器外科の手術をいつでも見学することができました。研究では物品が届くまでや次の予定が入るまでかなり待ち時間が多く、毎週火曜日にクレバトコ教授がプライベートクリニックに手術を行いにいらっしやるので見学をお願いしました。一例目を見学していた際に手術に入るかと聞かれたのでお願いし、それからは手術に助手として入らせて頂いています。午後から平均 5 件を縦で行い、CT もない病院ですが気管管状切除、管状肺葉切除、管状肺全摘、胸膜肺全摘などの拡大手術も自分が前立ちで教授と 2 人で経験する事ができました。なかなか日本でも見ることができない手術や手技を教えて頂き、時に英語の問題や私の手の動きに関して怒られながらも週に 1 度充実した時間を過ごすことができました。

また私が留学を開始した際に呼吸器外科の clinical fellow でいらっしやっていた先生の繋がりでも泌尿器科の research fellow である日本人の先生と知り合うことができています。泌尿器科では研究の合間に meta-analysis が行われていて、その技術を教えるので一緒にやろうと誘って頂きました。時間は十分にあったため教えて頂き、呼吸器外科の先生にも協力を頂き論文として雑誌にも掲載することができました。

今回の留学が始まるまで岩崎教授をはじめ、吉田先生、早稲田先生、前職場の大淵先生には一方ならぬご指導とご鞭撻を頂き感謝を申し上げてもしすぎることはありません。医局の先生方にも私のような者にこのような素晴らしい機会を作って頂き感謝しつつも申し訳ない気持ちでいっぱいです。また留学先の先生方には英語も碌に話せない外国人にも関わらず

辛抱強く教えて頂き感謝しております。色々な方々の助けの元にこのような素晴らしい留学の経験を頂いて

おり、この経験を今後活かせるようにこれからも日々研鑽を続けて参ります。



ISHを行なっている際の写真



研究について指導してくれてる先生達との写真
指導教授のコンラッド(右)とレジデントのアルベルト(左)



クレパトコ主任教授とプライベートクリニックで手術をしている際の写真



留学報告

福岡大学医学部医学科 大塚美玖、牛原夏海 (M4)

まず始めに、福岡大学医学部再生・移植医学講座 小玉正太教授・高橋宏幸先生のご尽力により今回の留学が実のあるものとなりましたこと、深く感謝いたします。

私達は、2019年8月5日から16日まで米国マサチューセッツ州ボストン市内にありますハーバード大学

医学部マサチューセッツ総合病院 Dr.Denise Faustman の研究室へ留学させて頂きました。

Faustman 先生の研究室では簡潔に申しますと、BCGが血糖変化に与える影響について研究されています。私達はまだM4で、留学期間も約2週間と短かったこともあり、主に高橋先生の実験の見学をさせ

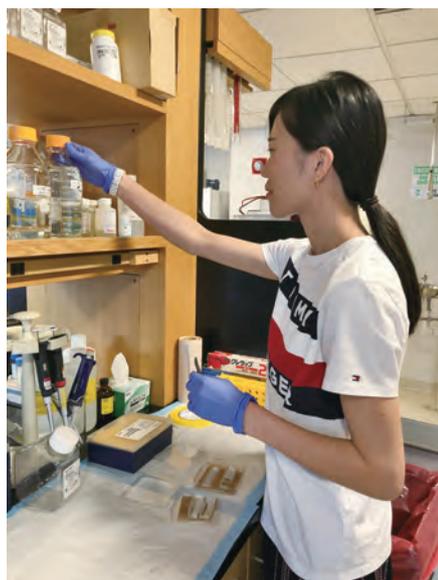
て頂きました。1週目は見学を通してどのような実験をしているのかを理解するだけでしたが、2週目には簡単な実験の手伝いなどをさせて頂きました。高橋先生にサポートして頂きながら、電気泳動から抗体反応、暗室での撮影までを実際にやってみることができました。また、患者の血液から血小板だけを分離・培養することもできました。実際にやってみて気づくことがたくさんあり、自分たちも実験に参加させて頂いたことは非常に貴重な経験となりました。毎週金曜日には研究室のメンバー全員でミーティングがあり、一度だけでしたが参加することができました。ミーティングでは、1週間の結果や成果を発表し合い意見交換がされていました。また、次週の予定についても話し合いが行われていましたが、堅苦しくはなく、スナック菓子を食べながら和やかな雰囲気、日本との違いを感じました。

2週間の間、研究についてはもちろんのことですが、海外の病院・研究室の雰囲気を肌で感じ、多くの

刺激を受けてきました。例えば、人。アメリカの研究室には医学部入学前の学生が多く在籍しています。彼らは4年制の大学を卒業し、2年程社会経験を積んでから、医学部へ入学するそうです。Faustman先生の研究室で出会った方は、自分たちとあまり年が変わらないにも関わらず、すでに自立して働いていました。さらに、彼らはアメリカ国内だけでなくカナダ、イギリス、韓国など様々な国から羽ばたいてきた人だと知り、狭い視野しかもっていなかった自分を省みるきっかけとなりました。

さらに、Massachusetts General Hospitalの見学では多国籍の医療従事者の方々が働いている姿を目の当たりにし、私もいつかこんな風に働いてみたいと思いました。その思いを、これから医学や英語を勉強する糧にできたらと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な経験をできたのは、福岡大学医学部同窓会のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。





海外留学報告

福岡大学医学部医学科 村上 阿理紗 (M5)

この度、福岡大学医学部同窓会 烏帽子会より助成をいただき、2019年8月4日から8月17日までの14日間、Stanford VIA 留学プログラム、Exploring Health Care (EHC) programに参加させていただきましたので報告させていただきます。また、この報告書を通してより多くの皆さんにこのプログラムへの興味を持っていただければ幸いです。

プログラムの主催であるVIA (Volunteer in Asia) はスタンフォード大学でアジア国際交流を担当しているNPO団体で、EHCはVIAのアジア学生向けの医学留学プログラムの1つであり、東京女子医科大学および東京医科大学を中心として20年以上の実績があるものです。プログラムではスタンフォード大学及びUCSF (University of California, San Francisco) の付属病院、ホスピス施設、同性愛者を対象としたクリニック、フリークリニックなどを訪問し、日本とアメリカの医療現場の違いを学ぶことにより、知識を深め、視野を広めるとともに、医学英語の能力を向上させることを目的としています。プログラムには日本以外にも台湾、中国など他のアジア地域からも医学生が参加する為、アメリカ以外の医療文化にも触れることもできます。Noviceコース(1-2年)とAdvanceコース(3-6年)に分かれており、1年生からも参加することができます。今回の参加者は32人でしたが、1年生は11人参加していました。今回の参加大学などの詳細は下記の通りです。

このプログラムは国際医療福祉大学教授である押見貴之先生から教えていただきました。私は1年生

のころより漠然とした海外への憧れがあり、将来residentまたはfellowとしていつかアメリカで働くことができると考えています。しかしながら福岡大学では6年生の海外病院実習の選択肢は韓国のみで、elective等での病院実習は許可されていません。そのためこれまで長期休みを利用してカンボジアやフィリピン、ブラジルなどへ研究留学や医学生ボランティアとして海外の病院へ行きました。アメリカでの臨床留学はなかなか厳しく諦めかけていたのですが、このEHCの目的はあくまで施設見学やパネルディスカッションを通して様々な視点からアメリカの医療について学ぶことですが、optionとしてAdvance courseはdoctor shadowingができるということで参加しました。選考方法はSkypeなどでプログラムディレクターと英語で面接を行い、コミュニケーション力、プログラムへの参加動機などを総合的に判断します。ダメもとでのチャレンジでしたが今回参加することができたことにとても感謝しています。

14日間と短い期間でしたが様々な経験をさせていただきました。

〈doctor shadowing〉

今回、UCSFのGeneral Internal Medicineにて病院実習をさせていただきました。私のチームメンバーはsupervisor, resident, medical student (3rd, 4th), pharmacy student, nurse practitionerの6人と比較的大きいチームでした。今回とても印象的だったのは医学生のレベルの高さと積極性です。彼らによる問診は非常に堂々として手慣れたものであり、

患者の主訴に即した問診をすらすらと行っていた姿には驚きました。日本の研修医のような役割を担っていることは知っていましたが、患者や上級医からはそれ以上の信頼を得ているように思われました。回診では薬剤生も一緒にラウンドへ同行しました。薬剤師の立場としての意見をしっかりと述べ、医者もその意見に耳を傾け、また時には相談しながら治療方針を決定していました。その他、コメディカルとのカンファレンスなどにも参加しましたが、それぞれがプロとしてきちんと役割を果たすからこそ信頼関係が生まれチーム医療が成り立つのだと気づかされました。また、多民族国家であるアメリカならではの感じる、ビデオ通訳を介した診療なども見ることもできました。

〈Panel Discussion on Organ transplantation〉

臓器移植に関するパネルディスカッションには、レシピエント4人、コーディネーター、ドナー家族が参加しました。移植に関わった方々から直接話を聞くことができたというのはとても貴重な経験でした。彼らの話ではそれぞれの移植に至るまでの経緯だけでなく、当時どんなことを思ったのかなどパーソナルな部分についての話もありました。質問の際も「レシピエントは移植後ドナー家族や社会からの正しく生きなければというプレッシャーからうつ病になるケースがあるとの報告を聞いたことがあるが、実際そのように感じたりしたことはあるか」といったような踏み込んだ質問にも答えて下さいました。福岡大学病院は脳死肺移植認定施設であり、3月に福大病院メディカルホールにて開催された臓器提供に関するパネルディスカッションを拝聴しました。実際の臨床現場では患者家族への臓器提供の提案がしづらいこと、また提案しても拒否されることが多いことなどを話されていました。また、ドナーの御家族も参加されていましたが匿名で参加されており、悪いことをしているわけではないのに、と感じたのを思い出しました。今まで私はこのような移植の話題を周囲に受け入れてもらえない、言いづらい雰囲気は日本の文化的にしょうがないものだと思ってきましたが、カリフォルニアでも最初から今ようではなかったこと、そして地道な啓蒙活動などによってドナー登録者数などが徐々に上がってきたことを教えていただき、自分の認識を改めさせられました。“Storytelling and having discussions are important steps toward creating positive change.” 移植や脳死についての教育や啓蒙などで

日本の未来も変わる可能性を感じました。

その他、スタンフォード大学の教授の授業や学生との交流など、ここに書ききれないたくさんの貴重な機会をいただきました。

プログラム内容の詳細や質問などありましたら私 (arisamurakami0618@gmail.com) またはプログラムディレクターの Lina (lina@viaprograms.org) まで気軽に連絡いただけたらと思います。

最後になりましたが、今回の留学を通じてこの様な貴重な経験をすることができたのも、相談によって下さった安元教授、医学英語や面接準備のサポートをして下さったフェリル先生、高木会長をはじめとして在外研修援助金によるご支援をいただいた烏帽子会の先生方のご尽力あってのことだと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

〈参加大学(参加人数)〉

国際医療福祉大学 (IUHW) (7)
 順天堂大学 (4)
 東京医科大学 (4)
 東京女子医科大学 (3)
 大阪医科大学 (3)
 東京医科歯科大学 (2)
 筑波大学 (1)
 日本医科大学 (1)
 獨協医科大学 (1)
 慶応義塾大学 (1)
 福岡大学 (1)
 Shanxi Medical University (中国) (2)
 National Yang-Ming University (台湾) (2)



UCSF のドクター達と



Organ transplantationのパネリストと



EHC参加メンバーと
スタンフォード大学の医学部キャンパスにて
5th-year studentsのみで撮った集合写真

短期留学プログラム
Via EXPLORING HEALTH CARE
IN SAN FRANCISCO & SILICON VALLEY
2020年3月16日～28日

説明会情報
国際医療福祉大学医学部
11月1日(金) 17:30～18:30
大講義室4 WA棟 2F
Presentation will be in English & Japanese

プログラムの概要
共通コース【全参加者】
・スタンフォード大学やサンフランシスコにおける医療システム・教育の実態を学ぶ
・臨床や臨床研修の倫理的な側面について多様な世界観に基づき議論する
・性的少数者における医療の課題と取り組みについて学ぶ

NOVICEコース【学部1-2年】
異なる医療施設の経験
スタンフォードの解剖学、ドクターヘリなど

ADVANCEコース【学部3-6年】
医療現場における
見学型臨床実習・医師の診療同行実習

お問い合わせ
Lina Yamashita
医療プログラム担当
lina@viaprograms.org
viaprograms.org/ehc

EHCプログラムは1963年よりアメリカとアジアの文化交流に取り組んでいる
非営利団体VIAによって企画、運営されます。



EHC 2020 spring
来春のプログラム募集の案内です。
今回、九州での説明会は無いとのことでしたが、質問などあれば上記までご連絡下さい。
メールは日本語でも可能です。



支部だより

令和元年度筑後支部総会開催報告

筑後支部評議員 長井小児科医院 院長 長 井 健 祐 (12 回生)

烏帽子会の皆様、こんにちは。12 回生の長井と申します。平成 22 年度より筑後支部評議員を拝命し、現在筑後支部の事務局を担当しております。筑後支部は、平成 4 年に大城昌平先生（1 回生、筑後支部顧問）が大変ご尽力され設立されました。以降、歴代支部長、諸先輩方の元、毎年支部総会が開催されてきました。現在の主な役員は、支部長浅倉敏明先生（8 回生）、副支部長宿里芳孝先生（10 回生）、評議員関幸彦先生（12 回生）です。本年も 6 月 8 日（土）に久留米市のハイネスホテル久留米にて、令和元年度福岡大学医学部筑後支部総会を開催致しました。

ご多忙の中、高木同窓会長、重田副会長には、毎年ご出席していただき、学内の状況等をお教えいただくとともに、同窓会に対する熱い想いをお話下さっています。支部総会では会計報告および予算案の検討、評議員会報告、その他の協議事項が活発に討議されました。例年支部総会に続き、福大病院や筑紫病院から先生を招聘し特別講演会を行っており、

本年は福岡大学医学部総合診療部教授の鍋島茂樹先生（13 回生）に「総合診療の今日的意義」という演題でご講演をしていただきました。大変分かりやすい総合診療についてのご講演でした。この場をお借りして鍋島先生に御礼申し上げます。懇親会では、会員が一人ずつ近況を報告するのが恒例なのですが、日々の診療のことから健康や趣味のことまで幅広い話題で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。その後、有志で二次会へ行き、楽しい時間を過ごす事ができました。遅くまでお付き合い頂きました高木会長、重田副会長、皆様へ感謝申し上げます。筑後支部総会は毎年 6 月第 2 週の土曜日に久留米市で開催しています。会員の親睦のみならず、医療連携の情報交換の場としても大変有意義な会となっていると思います。筑後地区には、久留米大病院をはじめ、聖マリア病院など基幹病院が多く、福大医学部の卒業生も多数在籍されていると思います。ざっくばらんな会ですので、皆様是非気軽に遊びにいらしてください。ご参加お待ちしております。



鍋島教授を囲んでの集合写真



二次会にて、向かって前列左から浅倉敏明筑後支部長（8 回生）、高木忠博烏帽子会会長（1 回生）、重田正義烏帽子会副会長（2 回生）
向かって後列左から長井健祐（12 回生）、山内祥弘（12 回生）、猪狩洋介（29 回生）、関幸彦（12 回生）、永江隆（14 回生）、永光信一郎（13 回生）、宮崎礼明（13 回生）、白川由佳（16 回生）（敬称略）

学生対策報告

令和元年度 烏帽子会主催 福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて

福岡大学医学部 病理学 教授 竹下 盛重 (3 回生)

2019 年 9 月 6 日 (金曜日)、天神レジデンスピラスにて M4 年生 87 名、M4 主副担任 4 名、M5 年生 1 名、烏帽子会員 103 名とともに M4 年生激励会を行いました。今回は M4 年生の出席が 87 名で、昨年同様留年を経験されている方の欠席が目立ちますが、あまり気にしないで先輩たちの有意義な講演をしっかりと聴いていただきたいのが私達の本音です。自分のことを、長い目で見ていただきたいと思います。今回は多数の M4 年生が来ていただけるよう天神ピラスを選びましたが、効果的ではありませんでした。また、学生と相談して良い所を探します。

会は、初めに本学 14 回生であり本年 4 月より福岡大学医学部消化器内科学平井郁仁教授より「**消化器疾患の現在・過去・未来**」というタイトルで講演をいただきました。歴史的に最初の内視鏡はまさに直線に近いもので大変だったこと、現在の進化したカプセル内視鏡での全腸検査、内視鏡的早期癌摘出術の向上、炎症性腸疾患への抗 TNF α 製剤を含め薬剤の進歩、また AI による病変の質的診断等楽しい話でした。聞いていて為になる話でした。会場がうるさい中、平井先生はものともせずやっていただき、ありがとうございました。その後は、医学部学生会副委員長である M4 年生境海斗君が司会進行役となり、懇親会が行われました。

懇親会では高木忠博会長のご挨拶、副担任、医師全員、重田正義副会長等よりアドバイスを頂きました。今回は今春の医師国家試験が最低であったこと

より、かなり厳しい内容の話も出てきました。唯一の M5 年生齋藤和馬君からは M4 年生へクリクラに向けての直近のアドバイスをいただきました。M4 を克服して student doctor になる努力、十分に勉強し M5、6 を充実させること、M6 卒業時の国家試験 100% 合格、大学を卒業してからも本大学を盛り上げてほしいという内容であったと思います。M4 学生にはあと 2 年半しか学生として自由に使える時間はないと思います。よく遊び、友人とじっくり話をして充実した大学生生活を送ってほしいと思います。最後は全員で校歌斉唱を行い、終わりとなりました。

本会は受付も M4 学生がします。また、例年 M5 年生が 10 名近く来る会でしたが、今回は 1 名で残念でした。連絡不行き届きでしたので来年からはまた M5 年生に参加していただきます。医学部内に「学生会」が正式にでき 3 年が経過しており、教育や環境改善に関して意見ができる様になりました。この M4 激励会も学生が主体となって、学生が楽しめるまとまりがある会になっていけば良いと思います。また、例年激励会後反省もかねて「M4 語ろう会」を行っています。今回は活況で、平井先生や安元先生始め多数の学内の教員が参加され、医学生と話していただきました。この会も激励会同様、医学部の若手や古手の医師が来て、学生とじっくり話していただければよりよい会になると思っています。学生は、医学教育と共にそれに携わる医師もみて、在り日の医師像を創ってほしいと思います。



M4 激励会

境 海 斗 (M4)

今年度、M4CBT 激励会で司会・進行を担当致しました M4 の境と申します。令和元年度である今回は会場も一新し天神地区にある、「THE VILLAS FUKUOKA」で初めて開催し、オシャレな空間と美味しい食事が特に、女子学生から好評でした。また、特別講演会として、今年度より福岡大学医学部消化器内科学主任教授にご就任されました平井郁仁先生にご講演して頂きました。平井先生はご専門である炎症性腸疾患についてのお話があり、最後には私達の OB である先輩として CBT その先の国試に向けた激励のお言葉を頂きました。私達 M4 は全員が CBT を突破することを目標としています。しかしながら、8 月に行われた CBT 模試では不甲斐ない結果となってしまう、その結果も受けて学生達は気持ちを

切り替えて頑張っています。激励会の時期は既に後期に入っており、学生達も緊張感を持つようになりました。平日の講義や部活後、週末に学校に残り勉強する学生も多くなってきました。学年の雰囲気は段々と良くなってきていると思います。今回の激励会で私達 M4 は更に、目標達成のために学年の士気を高めることができました。このまま、本番の 12 月に向けて学年全員で突っ走って行きます。最後になりますが、このような場を作って頂いた烏帽子会の先生方、そして企画等をして頂いた、病理学の竹下先生、循環器内科の北島先生、烏帽子会事務局の小山さん、その他ご出席して頂いた先生方、ありがとうございます。学年を代表して感謝申し上げます。



医学科 1 年生 ケーシー白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元佐和 (7 回生)

令和元年の医学科 1 年生は、早期臨床体験として 9 月 2-6 日に看護実習とクリニカルクラークシップ体験実習を行いました。9 月 2 日の実習開始前に、臨床大講堂において、同窓生教授（朔、竹下、坂田、

三浦、小玉、安元) から、1 年生代表 10 名に臨床実習用のケーシー白衣が贈呈されました。お揃いの白衣を身にまとい全員で記念撮影を行った後、学籍番号入りの聴診器をポケットに入れ、病棟師長に先導さ

● 学生対策報告 ●

れながら看護実習がスタートしました。今回は看護実習を通してチーム医療における医師に求められる能力、医療者プロフェッショナリズムとは何か、入院患者の生活や心理状態を知ること等を目標としています。実習中の課題として入院患者との面接、脈拍測定、他職種インタビューなどを行いました。また、5年生のチューデントドクターにも1日付き添い、臨床実習の体験を行いました。5年生の先輩の姿から自己の将来像を描き、基礎医学の学習が臨床に繋

がっていることに気づいてくれたらと期待しています。最終日にはグループワークを行い実習の報告会を行いました。今回贈呈いただいたケシー白衣は、2年生の臨床医学入門Ⅰでの模擬患者との医療面接、3年生の地域医療体験、4年生でのOSCE受験など臨床系の実習、演習で統一して着用します。同窓会の皆様からの医学生教育へのご支援に心から感謝いたします。今後とも暖かい叱咤激励を頂ければ幸いです。



令和元年 M1 木場 太司
 この度は我々一年生にKC白衣を授与していただき、誠にありがとうございます。看護実習とクリニカル・ワークショップ体験を経て、皆より一層気が引き締まったように感じられます。今後ともこの白衣に身心じぬよう、研鑽に努めてまいります。



M6 激励会・新入生歓迎会

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13 回生)

本年5月8日、アゴーラ福岡山の上ホテルにおいてM6 激励会を行い、5月15日、ホテルニューオータニ博多において新入生歓迎会を行いました。M6 激励会では、クラス担任、OBOG から国試の応援はもちろんのこと、大学に残り研鑽を深めることの重要性について話していただきました。その後6年生一人ずつ最後の一年にかけの思いを発表しました。

新入生歓迎会では、インフルエンザの流行により欠

席者もいましたが、総勢 113 名による祝宴となりました。初めに、田中伸之介理事によるスライドを使っての同窓会についての説明があり、その後担任、教員の先生方より歓迎の言葉をいただき、OB・OG の言葉、同窓の先輩でもある朔医学部長より福岡大学医学部が目指しているビジョンについてのお話、恒例のTシャツ贈与(通称烏帽Tと言われていているらしい)と続き、最後は全員 Tシャツ着用で校歌斉唱となりました。



M6 激励会先生方からの激励



M6 生の決意表明!!



烏帽子会の主な事業

- | | |
|---------|--------------|
| ①会報の発行 | ⑩学生行事援助 |
| ②総会の開催 | ⑪学会寄付 |
| ③支部活動援助 | ⑫慶弔贈与 |
| ④研究奨励賞 | ⑬グッズ作製 |
| ⑤在外研修援助 | ⑭会員名簿発行 |
| ⑥学生対策 | ⑮パニックマニュアル発行 |
| ⑦白衣贈与 | ⑯奨学金貸与 |
| ⑧国試対策 | ⑰縁結び |
| ⑨支部総会援助 | ⑱保険コンサルティング |



同窓会とは……?

人として、医師として
「先輩を敬い、後輩を導く」



キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
バスケットボール愛好会		第70回西日本医科学学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会 準優勝
準硬式野球愛好		平成三十年医歯薬秋季リーグ戦 優勝
CMet準愛好会		第4回全国医学生BLS選手権大会九州地区予選総合 第1位。 全国大会成人：胸骨圧迫(Standard)+人工呼吸+AED部門 第1位
アーチェリー愛好会	柳邊 崇志	第33回全日本医科学学生アーチェリー競技大会 男子個人総合 第1位 第十二回西日本医科学学生アーチェリー競技大会 男子個人総合 優勝
卓球愛好会	麻生 大貴	第33回九州・山口医師卓球大会 個人戦一般の部 準優勝
	麻生大貴 ・大串秀仁	第五十八回九州山口医科学学生体育大会 男子ダブルス 準優勝
柔道愛好会	緒方 裕文	第五十八回九州山口医科学学生体育大会 男子個人中量級 準優勝
	緒方裕文 ・洪 僚典	第五十八回九州山口医科学学生体育大会 男子団体戦 準優勝
ゴルフ愛好会	瀬 愛	2018年度七校戦 女子個人準優勝及び新人賞
剣道愛好会	三森 秀崇	第五十八回九州山口医科学学生体育大会 男子個人 準優勝
英語研究会	伊藤 友紀	JIMSA Speech Contest in kyushu2019 Good Performance 賞
陸 上	小池 明生	第五十八回九州山口医科学学生体育大会 男子 1500M・800M 第一位



女子バスケット愛好会表彰



準硬式野球愛好会表彰



ゴルフ愛好会長瀬さん表彰



CMet準愛好会表彰

九州山口医師卓球大会 個人戦シングルス準優勝を通して

福岡大学医学部 卓球愛好会 麻生大貴 (M6)



はじめに、荣誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。九州山口医師卓球大会において、個人戦一般の部で準優勝いたしましたのでご報告させていただきます。

本大会は毎年11月に開催されており、出場参加資格は九州地区の医師、並びに第5学年以上の医学生です。今回このような形で結果を残すことができ、大変嬉しく思っています。

本卓球愛好会は医学科・看護科・薬学部の部員から成ります。練習は週3回行っており、大会に向けて

練習に取り組んでいます。普段は、メリハリを持って質の高い練習ができるように心掛けています。また、練習のための練習とならないように試合を意識した緊張感を持つようになっています。

また勉強の面では6年生となり、国家試験を控える学年となりました。今回頂いた賞は、医師国家試験で結果を残してこそ、より価値があるものと自負しており身を引き締める思いで勉学に励みたいと思います。

最後に、これまで多大なご支援を頂きましたOBOGの先生方、卓球部の発展に尽力を尽くして下さいました顧問の先生、多くのことを指導して下さいましたコーチ、共に練習し、会場で応援をしてくれた部員、全ての方々のお蔭で今大会の成績を取ることができました。ありがとうございました。

九州山口医科学生卓球大会 男子個人ダブルス準優勝

福岡大学医学部 卓球愛好会 大串秀仁・麻生大貴 (M6)



はじめに、荣誉ある烏帽子会賞を頂戴しました事を厚く御礼申し上げます。この度、2019年4月に開催された九州山口医科学生卓球大会にて6年生2人のペアでダブルス準優勝をする事ができました。

卓球歴は中学

から数えて12年。人生のおよそ半分を卓球に捧げてきて、“最後”に九山で準優勝でき、烏帽子会賞まで頂く事ができ感無量です。

1年生の時から団体戦のメンバーとして出場し、3年生の時には主将も任せられ、プレイヤーとしてまた主将として責任を負う場面も多々ありました。任せられる仕事をこなしつつ、勉学にも力を入れなければならず、辛い時期も有りました。その際、ダブルスのペアである麻生君をはじめ、先輩方や後輩のサポートや気遣いに何度も助けられ、励まされ無事に職務を全うすることができました。この賞は自分だけの力で取れた賞ではなく、卓球愛好会に関わってくださった全ての方々のおかげであると実感しております。改めて、顧問である藤田教授、OB・OGの先生方、コーチ

の弓取先生にもこの賞を報告させて頂くとともに、感謝申し上げます。

卓球は生涯スポーツとも言われ、最近では若い選手の台頭により卓球ブームも到来しました。冒頭で“最後”にと申しましたが、学生として行う卓球が最後なのであって、卓球は私の人生であり、礎でもあるス

ポーツなので医師になってからもどこかで細々とですが続けていきたい所存です。

最後に、医師国家試験に合格し真の有終の美を飾ることを誓うとともに、後輩諸君には是非ともこの記録を超えるべく日々精進して頂きたいです。

“ピンポンと 努力が結果の 戸を開く”



烏帽子会賞を受賞して

福岡大学医学部 英語研究会 伊藤友紀 (M4)

この度は、荣誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。2019年6月に久留米大学にて開催された JIMSA Speech Contest in Kyushu 2019 において、Good Performance 賞を頂きましたことをご報告させていただきます。

コンテストでは、「Are you seriously Japanese?」というタイトルで、日本文化についてスピーチさせて頂きました。3歳ではじめた日本舞踊をきっかけに、私は異文化交流に興味をもつようになり、異文化の中に身を置くことで、他の国の文化に魅力を感じると同時に、日本にしかない、不完全な美しさを愛でたり、水の音や季節の変化など一瞬一瞬を楽しむ自分の文化の素晴らしさに気づかされました。この活動を通して、自分の文化を大切にしてはじめて、異文化の中で活躍できることを学びました。今回のスピーチでは、日舞を交えて日本の文化の美しさを表現し、もっと日本文化を知りたい、大切にしていきたいと感じる方が1人でも増えてほしいと思い臨みました。グロ

ーバル化が進み、国特有の文化が失われつつある今だからこそ、ひとりひとりが自分の文化を振り返り、大切にするときだと私は思います。

現在私は、ESS (English Student Society) に所属しており、留学生の受け入れを行う中で、より多くの留学生に日本の文化を体験してほしいという思いから、お茶会、日本食、折り紙や温泉など、私たちにできるおもてなしをしています。これからも周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、国籍や文化を問わずたくさんの方々との出会いを大切にして、様々なことに挑戦していきたいです。

最後になりましたが、私がこの賞を受賞できたのは、いつも私を応援してくれる両親、顧問の廣瀬先生、スピーチコンテストに向けて添削をしてくださったフェリル先生、星野先生、他にもたくさんの方々の支えがあって受賞することができました。本当にありがとうございました。



◀ 英語研究会伊藤さん表彰

第 58 回九州・山口大会の結果報告 ～個人準優勝～

福岡大学医学部 柔道愛好会 緒 方 裕 文 (M5)



まず初めに、荣誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。この度、第 58 回九州・山口大会医科学生体育大会男子柔道部門において個

人戦中量級で準優勝いたしましたのでご報告させていただきます。

柔道部は過去この大会において団体戦優勝、個人戦も各階級で優勝していた時代もあったと聞き、上位入賞を目指して部員一同練習に励んできました。私自身個人戦で結果を残したいと思い部活の練習以外でも町の道場で稽古をしていたので、今回このような成績を取めることができ大変うれしく思っております。また愛好会で柔道をする事で他大学の選手や町道場の社会人の方々と交流の機会があり、色々とお話を聞くことで自分の柔道の改善する点が見つかるこ



とができたので学校内だけでなく外に出向いて練習することの大切さを再確認することが出来ました。

最後になりますが今回このような結果を収めることができたのは、多大な支援をしてくださったOBの先生方、日々の練習で指導してくださったコーチの方々、共に練習し切磋琢磨してきた部員達、全ての方々のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

～団体戦準優勝～

福岡大学医学部 柔道愛好会 洪 僚 典 (M4)

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚くお礼申し上げます。この度は三月に久留米大学主幹のもとに行われました第58回九州・山口医科学生体育大会男子柔道団体戦において準優勝致しましたことをご報告させていただきます。

柔道部は以前この大会において団体戦優勝が常であったということ先輩方から聞いてまいりました。そのような先輩方に恥じぬよう部員一同練習に励み昨年に引き続き2年連続で準優勝することが出来ました。今年は決勝まで順調に勝ち進み、決勝も僅差

で優勝があと一步のところでした。また、大学で柔道を始めた部員も数名初めての団体戦に加わり見事に豪快な一本勝ちを収めました。このように今大会ではチームとしての成長を感じる事が出来ました。来年こそはさらに成長し優勝を勝ち取ります。

最後になりますが今回このような結果を得られたのは、多大なるご支援を下されたOBの先生方やご指導頂いているコーチの方々、厳しい練習をこなしてきた部員の仲間たちの存在があったのだと思います。ありがとうございました。



第58回九州・山口医科学生 体育大会個人戦準優勝のご報告

福岡大学医学部 剣道愛好会 三森 秀 崇 (M4)



はじめに、荣誉ある烏帽子会賞を受賞させていただきましたことを厚く御礼申し上げます。

この度、第58回九州・山口医科学生体育大会剣道競技部門個人戦において、準優勝致しましたので、ご報告させていただきます。試合内容としては、準決勝までは2本勝ちで進み、決勝戦で延長戦の末、相手の面打ちにより敗れ、優勝を逃すという結果でした。自分自身は、愛好会よりも勉強の方を常に優先し、愛好会の活動に関しての優先順位は低く、限られた時間の中で自分自身ができることを精一杯やれたら満足という気楽な気持ちで続けてきました。そんな中、今回のような結果が得られたことは、自分自身が一番驚いている次第です。

毎回、自分自身が剣道の試合に臨む際に心掛けていることがいくつかあるのですが、そのうちの2つを紹介したいと思います。1つ目は剣道を楽しむこと、2つ目は試合前に笑うことです。剣道を楽しむことで目先の勝敗だけに拘らず自然体で試合に臨むことができます。剣道に限らず「何事においても楽しむこと」をモットーにしている自分にとってはこの考え方を最も重要視しています。試合前に笑うことについては、試合前の緊張を和らげ、リラックスすることに繋

がり自分の実力を発揮しやすくなると個人的には感じています。この両者を特に意識して今回も試合に臨みました。今回の結果を受けて、自分自身の心掛けていることが結果に結びつく1つの考え方であると実感でき、とても嬉しく思いました。

剣道には「打って反省、打たれて感謝」という言葉があります。剣道は相手がいるから成り立つものです。今回の結果に満足せず、戦った全ての選手に感謝し、身体的にも精神的にも成長できるようにこれからも精進していきたいと思えます。

今後の抱負としては、剣道で培った忍耐強さや精神力を活かして、勉強の方にもより力を入れてしっかりと進級し卒業し医師になることです。医学生にとって最も優先されるべきは勉強であると思っています。学内試験、CBT、OSCE、BSL、卒業試験、医師国家試験とまだまだ乗り越えなくてはならない壁がたくさんありますが、これらにおいても今回の結果に負けないくらいの結果を残せるように頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、このような荣誉ある烏帽子会賞を受賞させて頂いたことに改めて感謝し、今後も福岡大学の医学生としての誇りを持って、残りの学生生活を過ごしていきたいと思えます。



九山活動報告 ～宮崎キコウ～

福岡大学医学部医学科 小池明生 (M4)



医学部第四学年(45回生)の小池明生と申します。2019年4月に開催された九州山口医科学生大会陸上部門において、男子800m・1500mの2種目で1位となりましたので報告させていただきます。

今回、陸上部門は宮崎開催であり、私個人としては人生初の宮崎県への訪問となりました。大阪府出身の私はこれまでに九州各県を訪れたことはあったのですが、宮崎県だけは未踏でありました。つまり、右も左も分からない、ついでに方言も分からない土地での大会となり、得も言われぬ不安感に苛まれていました。

そんな情緒が若干不安定な状態ではありましたが、密かに楽しみにしていたこともありました。食事です。宮崎でチキン南蛮を食べることが第2の目的だと本気で思っていたほどです。しかし食事をした店で用いられていたタルタルソースが、某3分クッキングメーカーが販売しているものと同じで少々残念でした。ただ、大会当日の朝、ホテルの朝食で食べた煮卵が非常に美味であり、チキン南蛮で気落ちした心を奮い立たせてくれました。

卵でやる気を取り戻し、いざ試合会場に向かおうとしたのですが、準備に手間取ってしまい予定していた電車に乗り遅れてしまいました。駅に着くまでは次の電車に乗れば良いと考えていたのですが、駅に到着してから次発が一時間半後と知り、大変焦りました。事前にもっとリサーチするべきだったと今大会一番の反省となりました。

慌ただしい会場入りとなりましたが、どうにか目標としていた2種目での優勝を果たすことができ、胸をなでおろしました。到着は遅くても足はちょっぴり速いことを示せたと勝手極まりなくも自己満足しております。

最後になりましたが、今大会出場するにあたり、友人や知り合いの先生といった様々な方にご声援をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



陸上 小池君表彰

西医体優勝のご報告

福岡大学医学部アーチェリー愛好会 柳 邊 崇 志 (M5)

先日行われた西日本医科学生アーチェリー大会にて個人総合優勝・中距離部門1位・フィールド部門1位を獲得することができましたので、ご報告します。また、殿堂入りという過分なる栄誉を与えていただきましたことを大変嬉しく思いますと同時に、福岡大学医学部生として、賞に恥じない行動をとらなければと、改めて気が引き締まる思いがします。烏帽子会の先生方には1年生の頃から応援いただき、その応援があったからこそここまで頑張ってきたと思います。ありがとうございます。

大会は5月4日のターゲット部門と、5日のフィールド部門から構成されます。

大学でアーチェリーを始めて5年が経ち、技術的に円熟してきたという自負はありましたものの、猛練習を重ねる同期や後輩たちの姿に、「もし負けたらどうしよう」と不安に駆られる場面がなかったと言える嘘になります。

アーチェリーという競技を通して、ひとつ自分に成長できた部分をあげるなら、「不安は、不安に思ったことを淡々と練習を繰り返すことで乗り越えられる」という学びを実体験として得られたことです。「相手はどのくらい強くなってる」「器具の調整がうまくいってなかったら」「体のコンディションは？」試合前いつも考え、不安に駆られました。今年の大会でもそうです。しかし、試合が始まってから不安に襲われたことは一

度もありません。練習で不安な点は何度も何度も繰り返し練習しました。アーチェリーは感覚的な部分も多い競技ですが、まず感覚として体に覚えさせた後に、自分の動きの一つ一つを客観的に評価し、最終的には言葉として表せられるところまで何度も何度も繰り返し練習しました。弓を握れば不安が消え、長い試合の中冷静にいられたのは「同じ動作をするだけで同じ結果が得られる」という無意識の確信を、繰り返す練習の中で得られていたからだと思います。

最後になりますが、顧問として、OBとしていつも応援して下さった坂田教授、部活動を支えて下さっているOB・OGの先生、様々教えて下さった先輩方と、競い合った同期・後輩には感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。



殿堂入り果たした柳邊君



アーチェリー愛好会 OB の先生方より祝福

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 30 年度収入支出決算

区分	科 目	30 予算	30 決算	30 決算予算比較	30 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,184,055	12,184,055	0	
	会 費 収 入	30,361,000	30,911,750	▲ 550,750	入会費：5,459,350 学年会費：5,239,130 年会費：20,075,470 準年会費：137,800
	保険工物件広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	9	19,991	預金利息
	預り金収入	40,000	63,191	▲ 23,191	
	仮 入 金	0	2,000,000	▲ 2,000,000	
	合 計	42,855,055	45,409,005	▲ 2,553,950	
支 出	給 与	3,330,000	2,704,590	625,410	パート 2 名
	旅 費	2,300,000	2,853,116	▲ 553,116	役員旅費：391,260 評議員会：597,380 私大連絡会：682,746 通勤旅費：193,240 その他：988,490
	事務用品費	400,000	273,621	126,379	
	印 刷 費	2,993,500	2,692,422	301,078	会報：2,598,300 封筒：62,640 その他：31,482
	通信運搬費	1,909,800	1,356,649	553,151	電信電話：76,402 会報：753,732 切手葉書：77,262 その他：449,253
	設備工事費	300,000	298,080	1,920	維持契約
	什器備品費	240,000	274,712	▲ 34,712	プロジェクター、プリンター
	事 業 費	21,684,000	15,937,372	5,746,628	総会費：377,002 研究奨励賞：1,496,819 在外研究援助金：600,000 学生会員支援：3,677,422 国試対策費：530,280 学生行事援助費：594,398 支部活動費：3,884,217 支部祝儀：120,000 M1M5 白衣贈与：1,531,210 慶弔費：1,250,200 学会寄付：1,700,000 縁結び支援費：152,712 WEB サイト：23,112
	会 議 費	2,000,000	1,147,686	852,314	理事会、会長懇話会：476,099 評議員会：536,679 各種会議他：134,908
	公 租 公 課	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
雑 費	2,032,400	1,338,662	693,738	税理士報酬：32,400 渉外費：181,785 業務用グッズ：12,830 その他：1,111,647	
預り金支出	40,000	60,211	▲ 20,211	給与源泉徴収税	
引当金積立	4,000,000	0	4,000,000		
借入金返却	0	2,000,000	▲ 2,000,000		
予 備 費	1,554,355	0	1,554,355		
	合 計	42,855,055	31,008,121	11,846,934	
	収 支 差 引	0	14,400,884	▲ 14,400,884	

平成 30 年度残金処分

残金額（収支差引額）	14,400,884 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	1,000,000 円
事業積立金積立	1,000,000 円
次年度繰越	12,400,884 円

平成 30 年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	89,080,464	13,236,919	7,783,363	110,100,746
本年度増加額	195,000	352,500	3,000,000	3,547,500
本年度受取利息	6,383	204		6,587
本年度減少額	▲ 324			-324
本年度未決算額	89,281,523	13,589,623	10,783,363	113,654,509

平成 30 年度事業報告と 2019 年度事業計画

年度 項目	平成 30 年度 事業計画	平成 30 年度 事業報告	2019 年度 事業計画	
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A
① 会報の発行	3,633,100	3,352,032	3,679,100	46,000
② 総会の開催	400,000	377,002	400,000	0
③ 支部活動援助	1,900,000	3,884,217	1,900,000	0
④ 研究奨励賞	2,000,000	1,496,819	2,000,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	600,000	2,000,000	0
⑥ 学生対策	5,000,000	3,677,422	4,600,000	▲ 400,000
⑦ 白衣贈与	2,000,000	1,531,210	2,000,000	0
⑧ 国試対策費	2,000,000	530,280	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	120,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	594,398	800,000	0
⑪ 学会寄付	3,000,000	1,700,000	3,000,000	0
⑫ 慶弔贈与	300,000	1,250,200	300,000	0
⑬ グッズ作製	2,000,000	0	1,500,000	▲ 500,000
⑭ 会員名簿発行	0	0	0	0
⑮ パニックマニュアル発行	3,000,000	0	3,000,000	0
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	1,000,000	152,712	1,000,000	0
⑱ 保険コンサルティング	30,000	0	30,000	0
⑲ ホームページ	24,000	23,112	24,000	0
合計	29,317,100	19,289,404	28,463,100	▲ 854,000

平成 30 年度収入支出予算

区分	科目	30 予算	2019 予算	2019 年度予算摘要	30 予算-2019 予算
収入	繰越金	12,184,055	12,400,884		▲ 216,829
	会費収入	30,361,000	30,250,000	入会費：4,370,000 学年会費：4,724,000 年会費：21,000,000 準年会費：140,000	111,000
	手数料	250,000	250,000	保険コンサルティング紹介手数料	0
	協賛金収入	20,000	20,000		0
	雑収入	40,000	40,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	0	0	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	0	0		0
	仮受金				0
合計	42,855,055	42,960,884		▲ 105,829	
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート 2 名	0
	旅費	2,300,000	2,300,000	役員旅費：600,000 評議員会：500,000 私大連絡会：500,000 通勤費：170,000 その他：530,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	2,993,500	3,039,500	会報：封筒：2,679,500 封筒：200,000 その他：160,000	▲ 46,000
	通信運搬費	1,909,800	2,000,000	電信電話：100,000 会報：1,100,000 切手葉書代：30,000 その他：500,000	▲ 90,200
	設備工事費	300,000	300,000		0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	21,684,000	21,284,000	総会費：400,000 研究奨励賞：2,000,000 在外研修援助金：2,000,000 学生会員支援費：4,600,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費：80,000 支部活動費：1,900,000 支部祝儀：230,000 BSL 用白衣贈与費：2,000,000 慶弔費：300,000 学会寄付：3,000,000 縁結び：1,000,000 保険コンサルティング 30,000 WEB サイトサーバー費：24,000 事業予備費：1,000,000	400,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会：700,000 評議員会：500,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	0
	公租公課	71,000	71,000	福岡市県民税	0
	雑費	2,032,400	2,032,400	税理士報酬：32,400 渉外費：500,000 慶弔費：500,000 その他：1,000,000	0
	預り金支出	40,000	40,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	4,000,000	4,500,000		▲ 500,000
協賛金支出	0	0		0	
借入金返却				0	
予備費	1,554,355	1,423,984		130,371	
合計	42,855,055	42,960,884		▲ 105,829	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)

(令和元年10月現在)

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	田 中 俊 裕 ⑰	佐々木 秀 法	茂 木 愛 ⑮
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	田 邊 真 紀 人	濱之上 暢 也 ⑳	元 永 綾 子 ㉑
循 環 器 内 科	岩 田 敦 ⑳	末 松 保 憲	有 村 忠 聰 ㉒
消 化 器 内 科	横 山 圭 二 ㉑	船 越 禎 広 ㉓	高 田 和 英 ⑮
呼 吸 器 内 科	青 山 崇	井 形 文 保 ㉔	串 間 尚 子
腎 臓・膠 原 病 内 科	伊 藤 建 二 ㉕	安 野 哲 彦 ㉔	永 室 尚 子
血液浄化療法センター		升 谷 耕 介	
脳 神 經 内 科	合 馬 慎 二 ㉑	藤 岡 伸 助 ㉖	小 倉 玄 睦 ㉓
精 神 神 經 科	衛 藤 暢 明	原 田 康 平	飯 田 仁 志 ㉑
〃 (デイケア)			永 野 健 太
小 児 科	石 井 敦 士 ㉑	太 原 鉄 平 ㉑	佐々木 聡 子 ㉑
消 化 器 外 科	塩 飽 洋 生 ㉖	加 藤 大 祐 ㉔	石 井 文 規
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	今 村 奈 緒 子	諸 鹿 俊 彦
整 形 外 科	木 下 浩 一 ㉖	村 岡 邦 秀 ㉑	田 中 祥 継 ㉖
形 成 外 科	稲 本 和 也 ㉓	上 木 原 達 哉	山 口 崇 之
脳 神 經 外 科	野 中 将 ⑯	松 本 順 太 郎 ㉑	三 木 浩 一
心 臓 血 管 外 科	峰 松 紀 年	林 田 好 生 ㉑	松 村 仁
皮 膚 科	柴 山 慶 継 ㉑	山 口 和 記	内 藤 玲 子
腎 泌 尿 器 外 科	入 江 慎 一 郎 ⑰	松 崎 洋 史 ㉑	古 屋 隆 三 郎 ㉑
産 婦 人 科	宮 原 大 輔 ㉑	倉 員 正 光 (産科)	荒 木 陵 多 ㉑
〃		南 星 旭 ㉑(婦人科)	
眼 科	佐 伯 有 祐	岡 村 寛 能	原 田 一 宏
耳 鼻 咽 喉 科	大 西 克 樹 ⑮	竹 内 寅 之 進	妻 鳥 敬 一 郎 ㉑
放 射 線 科	野々熊 真 也 ㉑	赤 井 智 春 ㉑	坂 本 桂 子
麻 酔 科	岩 下 耕 平	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ㉑
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	近 藤 誠 二	喜 多 涼 介
病 理 部	濱 田 義 浩 ⑭		
臨 床 検 査 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	入 江 悠 平 ㉑	水 沼 真 理 子	
総合周産期母子医療センター		大 田 栄 治 ⑰(新生児部門)	
		岩 中 剛	
総 合 診 療 部	増 井 信 太 ㉑	日 吉 哲 也	崎 原 永 志 ㉑
東 洋 医 学 診 療 部	坂 本 篤 彦		
薬 剤 部			
臨 床 研 究 支 援 セ ン タ ー			
卒 後 臨 床 研 修 セ ン タ ー			
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院(総医局長)	岡 村 圭 祐 ㉑	(救急科)	
循 環 器 内 科	白 井 和 之 ⑧	岡 村 圭 祐 ㉑	山 本 智 彦 ㉑
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	工 藤 忠 睦 ㉑	高 士 祐 一	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	赤 木 隆 紀 ㉑	宮 崎 浩 行	竹 田 悟 志 ㉑
消 化 器 内 科	※宮 岡 正 喜 ㉑	大 津 健 聖 ㉑	高 津 典 孝
小 児 科	吉 兼 由 佳 子 ⑰	平 井 貴 彦 ㉑	堤 信 ⑮
外 科	平 野 公 一 ㉑	小 島 大 望 ㉑	吉 田 康 浩 ㉑
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	南 川 智 彦	蓑 川 創 ㉑
脳 神 經 外 科	井 上 律 郎 ㉑	新 居 浩 平 ㉑	井 上 律 郎 ㉑
泌 尿 器 科	平 浩 志 ⑮	平 浩 志 ⑮	宮 島 茂 郎 ㉑
眼 科	藤 田 秀 昭	藤 田 秀 昭	山 口 宗 男
耳 鼻 い ん こ う 科	杉 山 喜 一 ㉑	杉 山 喜 一 ㉑	梅 野 悠 太 ㉑
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ㉑		
救 急 科	岡 村 圭 祐 ㉑		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
病 理 部	原 岡 誠 司		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）〔平成 31.4.2～令和 1.10.1〕

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
採用	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	准教授	佐藤 寿彦	1. 5.1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師	位藤 俊一	1.10.1	
	生化学	講師（4-7）	大野 芳典	1.10.1	
昇格	整形外科	准教授	金澤 和貴	1.10.1	
	皮膚科	講師	柴山 慶継 ⑳	1.10.1	
	手術部	講師	重松 研二 ㉑	1.10.1	
	皮膚科	講師	山口 和記	1.10.1	
	博多駅クリニック	講師	武岡 宏明 ㉒	1.10.1	
	産婦人科	講師	宮原 大輔 ㉓	1.10.1	
	筑紫循環器内科	講師	高宮 陽介 ㉔	1.10.1	
	産科婦人科学	講師（4-7）	宮田 康平	1.10.1	
	総合周産期母子医療センター	講師（4-7）	倉員 正光	1.10.1	
筑紫外科	講師（4-7）	宮坂 義浩	1.10.1		

訃報

正会員 井上 朝登 先生	令和元年 6月20日 逝去（4回生）
正会員 椎 教次 先生	令和元年 6月15日 逝去（6回生）
正会員 森本 健司 先生	平成31年 3月15日 逝去（6回生）
正会員 高原 利明 先生	令和元年 10月22日 逝去（3回生）
特別会員 古川 達雄 先生	平成31年 4月15日 逝去

事務局からのご連絡

- ◆会報を広く情報伝達の場に・・・医学部、病院、同窓会、会員、それぞれの方が、それぞれの相手に蟠りなく伝えて欲しいと願っています。教室、部門紹介など、何時でも何度でも何回でも投稿下さい。広く、躍動する情報テーブルになればと願っています。
- ◆会報表紙の写真の提供お願いいたします。

編 集 後 記

今年も短い秋が終わろうとしています。10月は“想定外”が常套句となってしまった自然現象が、またも日本を震撼させました。その他にも経済や平和に関する国際情勢の不安定化やモラルの崩壊など、年末に向けて寒々しい世相を感じずにはおられません。それでもわれわれは粛々と日々の診療と生活を紡ぐこととなります。そのような中、本号では同窓生を活気づける情報が豊富に発信されています。現役生の文武にわたる躍動はもちろんのこと、医学部や大学病院のみならず福岡大学のトップで同窓生が活躍するという知らせは、烏帽子会会員にとって大いなる励みになると思います。多様性を尊重し調和の取れた人材・組織を育てるため、これからも同窓生の声をお寄せ下さい。

文責 坂田 俊文（10回生 広報担当 福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学）

第39回

福岡大学 医学祭を終えて

第39回福岡大学医学部医学祭実行委員会 実行委員長 M4

河島 匠吾

本年度11月2日～11月4日に行なわれました第39回福岡大学医学祭についてご報告致します。前実行委員長の橋川さんから今年の3月にバトンを受け、本年度の実行委員会は発足しました。そして今年度はカリキュラムの移行期により特別にM3・M4の二学年合同で実行委員を構成することになりました。今回の医学祭を通して二学年の仲が深まるとともに、規模の大きい医学祭にすることができました。さて、医学展示企画においては前医学祭委員に倣って、七隈祭・雅祭合同で行うスタンプラリーの実施、医療体験コーナーの設置、さらに医学祭ビンゴ大会への参加券配布によって、今年も700名ほどの多くの方に来場いただきました。その結果、臓器展示は来場者アンケートで「興味の惹かれた団体」において2位を獲得いたしました。献血でも医学祭ビンゴ大会への参加券を例年より多く配ることで150名の方に参加していただきました。講演会では、本年度の学祭のテーマである「性」に関する講演などを普段から開かれていた先生方を学内外からお招きしました。身近な性の

話について講演して頂き、質疑応答の時間では質問カードを配ることでより参加型のものとなりました。さらに、パンフレットの裏表紙に保健所で行われている検診の啓発ポスターを掲載することで性感染症予防について多くの方に知ってもらえたのではないかと思います。それぞれの企画を通して、今年度のテーマである「現代の性について考える」ことの重要性を多くの人に伝えることができたのではないかと感じております。実行委員会で医学祭を運営していく中で、様々な困難なこともありましたが、それらを協力して乗り越えていき、学年の結末はより強いものとなったと思いますし、この学年にとって素晴らしい思い出となり、大きな財産となったのではないかと思います。

最後になりましたが、今年度医学祭を開催するにあたって、大変お忙しい中、御指導・御協力を賜りました医学部長の朔先生をはじめ、学生部長の小玉先生、烏帽子会の先生方、企画運営に際して多くのことを教えて頂いた笠先生、医学部事務課の皆様、何度も助言を頂いた医学祭実行委員会の先輩方、医学祭

関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。これももちまして、私たちの活動は終了し来年度の医学祭実行委員に引き継いで参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。以上で本年度医学祭のご報告を終了致します。



告知

福岡大学医学部同窓会 第39回 烏帽子会総会

開催日 2020年7月4日(土) 4:00PM～8:00PM 会場 ソラリア西鉄ホテルにて

烏帽子会会報第67号

発行日 令和元年12月1日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@eboshikai.jp / maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901